令和元年度

美術館教育普及報告書

沖縄県立博物館・美術館

令和元年度

美術館教育普及報告書

目　次

3 目次
4 はじめに
5 本年度の取組み
6 キュレータートーク
7 アーティスト・ギャラリートーク
8 ミュージアムツアー
9 美術館　学芸員講座
10 教職員講座
11 教員実技研修会①
12 教員実技研修会②
13 招聘事業「美術館へ行こう」
14 学校支援プログラム
15 生徒の声
16 教師の声
17 鑑賞ボランティア活動報告
18 鑑賞ボランティア活動報告　振り返り
19 学芸員実習
20 アートコンクール
21 アートコンクール（審査講評）
22 ワークシート
23 中学校鑑賞プログラム
24 OKINAWA アートワークショップ 2019
25 OKINAWA アートワークショップ 2019（写真）
26 夏休みこどもフェスタ
27 夏休みこどもフェスタ（写真）
28 移動展 in 伊江島
29 移動展 in 伊江島　展示・ワークショップ
30 複製画制作
31 美術館　職場体験
32 展覧会関連催事　伊志嶺隆・平敷兼七展
33 展覧会関連催事　金城安太郎
34 展覧会関連催事　沖縄を描いた画家 1930-1950´s
35 展覧会関連催事　真喜志勉 ドローイング展
36 展覧会関連催事　作家の視点、作品の視点
37 展覧会関連催事　石田尚志展　大城精徳の仕事
38 展覧会関連催事　沖縄美術の流れ
39 展覧会関連催事　上條文穂と波多野泉 現代彫刻展
41 展覧会関連催事　作家と現在
43 実施統計
49 さいごに
50 奥付

[はじめに]

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館･美術館は､現在｢おきみゅー｣という愛称で親しまれ、今年度おかげさまで開館 12 年目を迎えました。入館者数は 570 万人を超えております。これも県内外の多くの皆様の当館に対する期待の表れだと考えおり、併せて、我々に課された使命の大きさを改めて感じているところであります。

美術館の主な活動内容には｢収集｣･｢保存｣･｢調査研究｣･｢展示公開｣･｢教育普及｣の 5 つの柱があります。教育普及活動は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流やつながりを大切にし、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出することで、より多くの皆様が美術に親しみ、美術を楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、令和元年度に実施した美術館の企画・コレクション展関連催事､学校団体鑑賞プログラム､各種ワークショップ､ミュージアムツアー､移動展など、幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。

常に新しいプログラムに取り組み、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に県立博物館・美術館を活用する契機となりますよう期待するとともに、教育普及活動に対するご理解への一助になれば幸いです。

令和 2 年 3 月　　沖縄県立博物館・美術館　館長　田名　真之

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へこう」を実施するとともに、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」を実施しました。また、小学校・中学校・高校・大学と美術館の連携授業としても、キャリア教育、鑑賞プログラムを取り入れた対応が出来ました。特に特別支援学校と連携した鑑賞プログラムには大きな成果がありました。

そして中学生・高校生向けにニシムイ鑑賞プログラムが完成し、教職員に公開しました。資料を配布し、授業での活用をしてもらえるように出前レクチャーを行いました。館内には鑑賞サポートワークシートの設置も行っています。鑑賞サポートシートを学校に配布し、事前学習や長期休暇の課題に活用して頂いたところ、夏休みや週末の美術館に中学生の姿を見かけるようになりました。

また、昨年度から継続しているプログラムとして地元の素材・題材にこだわった、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWA アートワークショップ」は大好評で、今年度も新しいプログラムを開拓していきました。

新たな取り組みとして、美術品複製事業を行いました。当館収蔵作品の中から、複製作品を制作することにより、「美術館出前授業」や「移動展」にその活用が積極的に行われ、当館の収蔵作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となりました。

新たな取り組みを行うことで様々な個人・団体との連携を図ることができ、新規来館者の開拓に繋がったと考えられます。

本年度のコレクション展では「金城安太郎展」「沖縄を描いた画家」「真喜志勉ドローイング展」「作家の視点・作品の視点」「大城精徳の仕事」「石田尚志展」を開催し、たくさんの関連付帯催事を通して作品理解が深まる情報を提供しました。

企画展では「上條文穂・波多野泉-現代彫刻展」「作家と現在」を開催し、県内・国内外からも多くの来館者を迎えることが出来ました。

以上のように、今年度も様々な取り組みを通し、教育普及活動の充実につながったと考えております。ご協力くださった多くの皆様に感謝申し上げます。

沖縄県立博物館・美術館
教育普及担当学芸員　富原圭子

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の内容を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話を聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会へ向けての情報収集となる。

●亀海史明 学芸員

●大城さゆり 学芸員

【学芸員の声】

本美術館では、県民の美術への関心を高め、理解を深めるため、定期的に講座を開催している。講座・講演会の内容としては、収蔵作品や常設展示・企画展示等に関するものと、沖縄・アジアの歴史や風土に関するものなど、本年度は２つの企画展「上條文穂・波多野泉現代彫刻展」「作家と現在」の関連する催事として、話題性に富んだ講座・講演会を開催した。さらに両企画展の付帯催事では、いまをときめくアーティストの制作に関する講話を通して、アーティストへの理解を深めることができた。次に、コレクション展では「金城安太郎展」「沖縄を描いた画家」「作家の視点、作品の視点」「石田尚志展」「大城精徳の仕事」の企画性の高い展示と、また通年で沖縄の美術の系譜をテーマにする「沖縄美術の流れ」と、それに関する講座を行った。当美術館での講座の目的は 2 つに分かれる。（1）美術を中心とした文化に関する興味・関心の啓発を図る（2）展示作品の内容解説や疑問への対応などを通じて来館者の美術への関心を高める。

これらの活動を継続して、美術が鑑賞者にとってより親しいものとなるよう展示解説等を行えればと思う。そして個人的には、ベビーシッターサービスを復活させたい。(豊見山)

●豊見山愛 学芸員

アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家に対して、新たな気付きや理解がより深まることに繋がっていく。

●友寄寛子氏

●石川竜一氏

【作家の言葉】

沖縄に活動拠点を移して 34 年になります。もし沖縄で制作していなかったら私の彫刻は今とは違ったものになっていたと思います。島の大地・自然に正面から向き合うことで表現者としての私は様々な刺激を受け、それをもとに作品を創り続けることができました。彫刻をアピールするために丸山映氏と始めた現代彫刻研究会の活動は、積極的に地域社会と関わりを持ったことで多くの人々との出会いがあり、そのネットワークが海外にも波及して、はからずも“沖縄発信”という理念の具現化につなげることができました。今でも当時の熱気を思い出します。（上條文穂）

私は、主に具象的表現を旨とし仕事をしてきた。それは、自然から多くを学ぶことでもあるが、言うまでもなく誘惑に負けて闇雲に写しているようではいけない。観察の向こう側にあるものを見てみたいと思う。私の仕事は塑造による人間観察とブロンズ、テラコッタに始まり、少しは石もやったが、近年は主に木彫と乾漆の併用である。削りたいし付けたいのだ。とにかく往生際が悪いので時間がかかるし労働をともなうが、彫刻をする者にはその面倒な行為の中に身を置き、求めるものが見えるまで待つしかないのである。(波多野泉)（企画－上條文穂と波多野泉　現代彫刻展　図録より抜粋　担当－梶原正史学芸員）

●上條文穂氏

●波多野泉氏

ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。各担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室における実際の作業に関する説明は、参加者の多くの関心を引いている。夏休みの時期となる 8 月には、親子を対象としたツアーを実施。

① 実　施：年 5 回　土曜日　10：30～12：00

② 内　容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する

③ 定　員：12 人

●10 分程度の座学

●トラックヤード

－作品を伝えていくために－

亜熱帯に属する沖縄では、気候風土など地域の特性に合わせて美術品の保存を考えなくてはいけない。しかし、沖縄での美術品の保存に悪影響をもたらしたのは自然環境だけではない。

沖縄は、第 2 次大戦で日本唯一の地上戦を経験し、それまでの作品の大半を失った。戦前の油彩画などは、画家が疎開先などで残してきた作品がわずかにある程度だと伺った。

戦後は、地理的な問題にアメリカ占領下であることも加わって、沖縄の作家たちは東京へ作品を出品する際、キャンバス布を木枠から外し巻いて輸送し、搬入先で張り直すという作業をしていたらしい。このような作業が繰り返し行われたため、作品の特徴的な損傷になることもある。

保存修復に関する研究は、技術的な内容に留まらず、このような沖縄の美術品が負わされた事実も調査し、なぜその損傷が起こらざるを得なかったのか、ということも重要である。（保存修復の現場より）

●工作室

●修復室

美術館　学芸員講座

学芸員とは、美術館や博物館において展示する作品・資料のお世話をする仕事である。英語では学芸員を『キュレーター』と呼び、語源は『ケア（世話・配慮）』からきている。

学芸員室や研究室と呼ばれる場所を活動の拠点とし、作品・資料の収集・保管・調査・研究などを行ったり、定期的に展覧会の企画・開催などを行うことが主な業務になる。文化的な作品・資料の持つ本当の価値を、美術館や博物館といった場所で、たくさんの人々に伝えていくことが最大の使命だと言えるだろう。

回	期　日	曜日	講座名	担当
1	8 月 31 日	土	「沖縄を描いた画家 1930-1950's」	豊見山愛
2	10 月 5 日	土	「美術品の保存について」ー保存修復の現場からー	梶原正史
3	1 月 11 日	土	「真喜志勉ドローイング展」	大城さゆり
4	1 月 19 日	日	「コレクションと展示」	亀海史明

●梶原正史 学芸員

●豊見山愛 学芸員

●亀海史明 学芸員

【学芸員の声】

当館は、①近代以降の沖縄美術、②沖縄にゆかりのある作品、③アジアの美術を収集し、現在の収蔵品は約 4000 点におよぶ。学芸員はそれらを日々研究し、その成果をもとに企画性の高いコレクション展を開催するよう心がけている。

本年のコレクション展として、「沖縄美術の流れ」（通年）、「金城安太郎展」「沖縄を描いた画家 1930－1950's」「真喜志勉ドローイング展」「作家の視点、作品の視点」「石田尚志展」「大城精徳の仕事」の 7 つの展覧会を行った。それぞれの展覧会期中に、担当学芸員による学芸員講座を開催し、研究で新たに明らかになったことを報告し、展示作品をより深く鑑賞していただく機会としている。

「真喜志勉ドローイング展」の学芸員講座では、画家・真喜志勉のアメリカ滞在に注目し、その経験が作品にどのような影響を与えていたのか検証を行った。来場した方から新たな情報を得られることも多く、学芸員と鑑賞者をつなぐ重要な機会となっている。（大城さゆり）

●大城さゆり 学芸員

教職員講座

今年度も、沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教諭、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、美術館内のアトリエにおいて図画工作・美術に関する研修を開催した。

図工・美術における授業の指導向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的とした。

今年度は、第 57 回沖縄県造形教育研究大会・テーマ　思いがつながる造形教育（那覇大会）の会場として本館が活用された。

●第 57 回沖縄県造形教育研究大会（那覇大会）

【日　時】　8 月 6 日（火）・7 日（水）・8 日（木）
【会　場】　美術館　県民・子どもアトリエ・博物館講座室
【参加者】　保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校・特別支援学校・画工美術関係者
【後　援】　沖縄県教育委員会・那覇市教育委員会　沖縄県立美術館
【協　賛】　ぺんてる株式会社
【内　容】　①幼稚園・小学校・中学校実践研究発表　②記念講演会　③ワークショップ

	午前の部	午後の部
8/6（火）	①「造形活動から見る幼児の『10 の姿』」 うるま市立伊波幼稚園教諭:伊波薫 ②ワークショップ「画材技法の基礎講座」 講師:大塚義孝（ぺんてる株式会社）	③記念講演「発達段階にみる造形活動の支援」 講師:西村貞雄（琉球大学名誉教授）
8/7（水）	①ワークショップ「画材技法の基礎講座」 (特別支援教育向け) 講師:大塚義孝（ぺんてる株式会社）	②「クミクミックス（3 年）の実践を通して」 那覇市立開南小学校教諭:喜捨場美也子 ③「動きをとらえて　形を見つけて（6 年）」 那覇市立壺屋小学校教諭:瑞慶山佑輝 ④「図画工作における基本的技法」造形会員
8/8（木）	①「地域とつながるパッケージデザイン」 名護市立久志中学校教諭:島本京子 ②自己肯定感を育む表現指導の工夫 「造形活動における対話的な交流授業」 うるま市立あげな中学校教諭:當銘直樹	③美術館と学校連携の取り組み 「沖縄美術の流れ」教育普及プログラム -中学校鑑賞プログラム「ニシムイ」教材- 県立美術館学芸員:富原圭子 ④授業実践紹介 県立開邦中学校・宜野座中学校教諭:有川愛乃 琉球大学附属中学校教諭:酒井織恵 那覇市立神原中学校教諭:照屋真紀子 那覇市立城北中学校教諭:木村憲一

教員実技研修会①

8月6日（火）大会１日目（保育園・幼稚園・こども園部会）

●ぺんてる（株）大塚義孝氏によるワークショップ

●西村貞雄氏による記念講演

【参加者の声】

■造形活動が様々な活動との関わりの中で、展開されている様子が、良くわかりとても勉強になりました。

■新しい技法や材料の組み合わせ、展開が知れてとても楽しかったです。特に連画は夢中になれ、実践してみたいと思いました。

■実践だけではなく、実践するにあたっての考え方、素材の特徴、実践を通しての育ちなど、幅広く考えることができました。来年も受けて学びを深めていきたい。

8月7日（水）大会２日目（小学校・特別支援教育部会）

●ワークショップ「画材技法の基礎講座」

●「図画工作における基本的技法」造形会員

【参加者の声】

■これまでの授業で造形遊びが工作のようになって悩むことがありました。子ども達がのびのびと活動できるように"言葉かけ”を工夫しなければいけないなと思いました。これから、子ども達のどのような力を引き出したいのかを考え、狙いをしっかりとおさえた上で、子ども達が夢中に活動できて、私自身も楽しめるような授業を作っていきたいなと思いました。ありがとうございました。

■実践発表では、子ども達ののびのびとした作品から様々な気付きがあり、造形遊びの面白さや指導する時の難しさに気付けたと思います。今後の学習でも活かせられるようにしたいと思いました。

■午前の研修では、望遠鏡や紙飛行機などの工作、絵の具を使った作品づくりなど、様々な活動をすることができて楽しかったです。絵の具を手でさわることは新感覚で大人も楽しく活動できました。グループで一つの作品を仕上げる面白さを実感することができたので、子どもたちにも味わわせたいなと思います。

教員実技研修会②

８月８日（木）大会３日目（中学校部会）

●名護市立久志中学校　島本京子 教諭

●うるま市立あげな中学校　當銘直樹 教諭

【参加者の声】

■私は、ほんとうに今日発表会にきて良かったと思います。午前２つ、午後１つの実践事例でしたが、多くの先生方が助言していたように「美術の授業を教室の中で終わらせていけない」ということの意味を深く考えさせられました。島本先生の地域とつながるパッケージデザイン、當銘先生のキャラクターデザイン、美術館の富原先生のニシムイのプログラム、共通して、生徒が学んでいるとき、これから学んでいくときと外にむかっていました。そこで、自分のやりたいことを探しているようで素晴らしかったです。當銘先生の「美術の実践なのに、怒られるかも知れませんが、実は、道徳の授業を考えていたのです。」というお話には、心底うなづきました。

■今日は参加できて本当によかったです。現在非常勤として勤めさせてもらっていますが、今日の先生方の発表を見て、自分自身の未熟さに改めて気付き、生徒たちに申し訳ないなと反省しました。今回のような機会があればぜひこれからも参加させていただきたいです。教材研究の大切さ、ワークシートの工夫…学んだことを持ち帰り、授業でいかせるよう努めていきたいと思います。

■どこの場でも言っているのですが、県単位、もしくは地区単位でもいいので共通の年計があるといいと思います。みんなが同じ内容の授業をすることで、お互いの困り感、工夫などを出し合うことができると思います。今日のニシムイの資料など全員が使え、使ったあとの工夫等が話し合えたらいいと思います。

■実践発表「魅力が伝わるパッケージ」「キャラクターデザイン～あーちゅん～の仲間をデザインしよう～」共に、先生方の熱意が伝わりました。また今後、自分自身も取り組んでみようと思っていた題材だったため、大変参考になりました。午後の圭子先生の「ニシムイ」についての授業を是非本校でも早速、取り組んでみたいと思います。たくさんの教材、データ資料等、準備頂きありがとうございました。改めて『美術は楽しい！！』と思えた研究会でした。感謝です。

●神原中学校　照屋真紀子 教諭

●県立教育センター　上原進 主事

●中学校部会

バス招聘事業「美術館へ行こう」

平成２４年度から、スタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」も今年で９年目、今年度は本島中部・那覇地区・南部の小中学校に対して公募を行った。そして博物館との連携も図り博物館常設展示室の見学もプログラムに導入した。９月から２月にかけて１１校（673 人）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞を楽しんだ。今年度は特別支援学校との連携を強化することが出来た。当日、児童生徒は対話による鑑賞を通して多くの気付きと感動が生まれた。児童にとってこの体験が美術館鑑賞のスタートとなり、今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけとなりうると推察される。

	学校招聘事業	事前学習	来館日	参加(人)
1	読谷村立渡慶次小学校（5 年）	9 月 4 日	9 月 25 日	102
2	沖縄市立山内中学校（特）	9 月 11 日	9 月 26 日	17
3	浦添市立当山小学校（特）	9 月 18 日	9 月 27 日	54
4	沖縄市立越来中学校（3 年）	9 月 27 日	10 月 4 日	64
5	糸満市立真壁小学校（6 年）	10 月 1 日	10 月 8 日	29
6	浦添市立浦添中学校（特）	10 月 3 日	10 月 9 日	25
7	うるま市立赤道小学校学（6 年）	10 月 6 日	11 月 19 日	110
8	沖縄市立安慶田小学校（6 年）	10 月 7 日	11 月 20 日	86
9	那覇市立神原小学校（4 年）	11 月 20 日	12 月 5 日	59
10	那覇市立那覇小学校（4 年）	11 月 28 日	12 月 6 日	83
11	島尻地区美術部 （伊良波中・西崎中・糸満中・潮平中）	2 月 6 日	2 月 15 日	44

●エントランスでボランティア紹介

●対話による鑑賞①

●彫刻鑑賞

●対話による鑑賞②

県立美術館学校支援プログラム

学校支援プログラム内容

1．鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：〔美術館で〕
2．美術館出前講座（レクチャー＋チームティーチング）：〔学校へ〕
3．教育普及キット貸し出し：〔学校へ〕沖縄遊具体験：〔美術館で〕
4．博美連携夏休み教員向け講座：〔美術館で〕
5．小･中職場体験や研究会の研修受入：〔美術館で〕

Art museums School support programs

1．鑑賞支援プログラム

（1）「美術館へ行こう」（学校招待事業）

○児童・生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品をもとに鑑賞を行う。（バス２台分補助）
○学芸員が事前に鑑賞の授業レクチャー・チームティーチングの指導を行う。（学校）
○当日は、鑑賞ボランティアさんによる「対話を通した鑑賞」を行う。

（2）「学校団体鑑賞プログラム」

○学校・学級等で申込した団体に鑑賞ボランティアによる「対話鑑賞」又は鑑賞解説を行う。
○社会科・総合的学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料を当時を知る手がかりの素材として活用する。（学芸員の出前授業レクチャーと来館しての鑑賞）

※学校の要望等に応えながら学校と美術館で授業を作り上げていきましょう。

鑑賞プログラムの細かい流れについては、学校側との調整になります。
※申込は、当館のホームページよりお願いします。
http://www.museums.pref.okinawa.jp

※詳しいお問い合わせは
098－851－5402（美術館直通）
098－941－3730（FAX）
tomihark@pref.okinawa.lg.jp
主任学芸員　富原 圭子

2．美術館出前講座（授業レクチャー）

○作品を複写したパネル（ティーチャーズ・キット）での鑑賞の授業のレクチャーや、授業の支援を行う。

3．教育普及キット貸し出し

○作品を複写したパネル（ティーチャーズ・キット）やアートカード（美術館収蔵作品をもとに 60 点カードにしたもの）を貸し出し、学校での授業に役立てる。　※借用申請して授業で活用して下さい→TEL

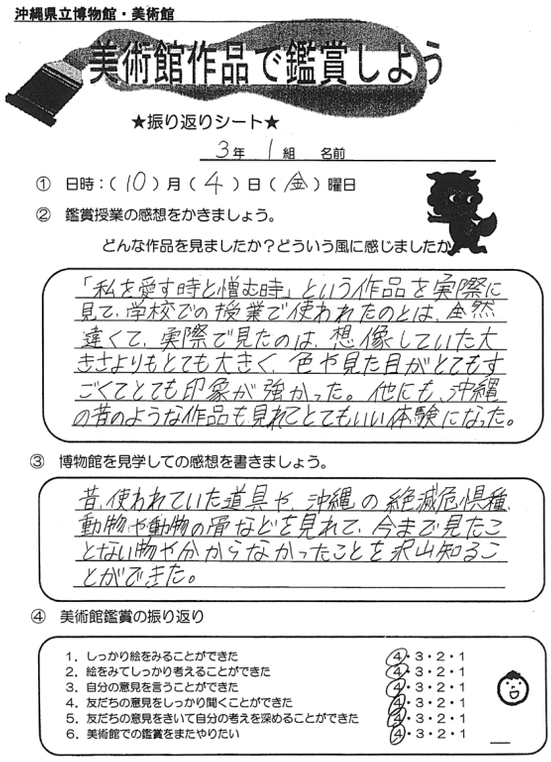
4．博美連携教員向け講座

○美術館連携の授業の在り方や博物館・美術館の活用の仕方等の学習会を行い、情報提供を行う。

5．小・中職場体験や研究会の研修の受け入れ

○収蔵作品の鑑賞や当館の教育普及プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できます。

生徒の声



沖縄県立博物館・美術館

美術館作品で鑑賞しよう

★振り返りシート★

3年 1組 名前

① 日時：（10）月（4）日（金）曜日

② 鑑賞授業の感想をかきましょう。

どんな作品を見ましたか？どういう風に感じましたか

「私を愛す時と憎む時」という作品を実際に見て、学校での授業で使われたのとは、全然違くて、実際で見たのは、想像していた大きさよりもとても大きく、色も見た目がとてもすごくとても印象が強かった。他にも、沖縄の昔のような作品も見れてとてもいい体験になた。

③ 博物館を見学しての感想を書きましょう。

昔、使われていた道具や、沖縄の絶滅危惧種、動物や動物の骨などを見れて、今まで見たことない物や分からなかったことを沢山知ることができた。

④ 美術館鑑賞の振り返り

1. しっかり絵をみることができた ④ 3・2・1
2. 絵をみてしっかり考えることができた ④ 3・2・1
3. 自分の意見を言うことができた ④ 3・2・1
4. 友だちの意見をしっかり聞くことができた ④ 3・2・1
5. 友だちの意見をきいて自分の考えを深めることができた ④ 3・2・1
6. 美術館での鑑賞をまたやりたい ④ 3・2・1

沖縄県立首里高校染織科

◎美術館に何度も訪れたことはあったが、バックヤードという存在を知ったのは、今回が初めてで、何だろう?という気持ちが強かった。その中で興味深かったのは、作品の修復で、傷んだ絵を元通りにする作業はとても重要なことを改めて感じることが出来た。「決して」完ぺきに作り直すのではなく、少しあとを残して歴史を大切にする」ということを聞いて、ここまで考えられて、私たちの目に届いていたことを知った。これから作品を見るときは、ただ見るのではなく、その作品がここまで流れ着いた歴史を感じながら楽しみたいと思った。

沖縄県立開邦高校芸術科

◎今回の鑑賞では、ただ絵を見るだけではなく、その絵が描かれた背景やコンセプト、その時代に起こったこと等もからめて絵を見ることができ、とても貴重な体験ができた。また、油絵を本格的に始めてから見る絵は、今までと違った表情をしていて、自分自身学ぶこと、感じることが多くあった。この貴重な体験をしっかり吸収して作品制作のうえで活かしていきたい。さらにバックヤードでは、今まで触れることのなかった美術館の裏側を知ることができ、様々な職業を知ることができ、とても良い機会となった。（1 年）

◎学芸員でなくても、いろんなかたちで沖縄の文化を次へと伝えていけると教わったので、私自身もそれができたら、そうしたいと思った。（2 年）

◎ニシムイの事前学習をしてからの美術館は、前回よりも気づくことがすごく多くて、とても勉強になった。

◎ニシムイの作家から現代彫刻の作家など、様々な作品表現を一日で見ることができて、とても刺激的だった。自分にはなかった視点や技術に触れ、これからの創作活動に活かしていきたい。自分の専門以外の作品も積極的に見に行き、吸収して自分のものにしていきたい。（3 年）

沖縄県立浦添工業高校デザイン科

◎今回の校外学習では、普段見ることのないようなもの、場所にいくことができて本当に参加できてよかったです。美術館のバックヤードを見ることに本当に憧れていました。たくさんの場所を見せてもらえて本当に感激です。作品の管理体制、働く人達の作家さん達へのリスペクトが、ひしひしと伝わってきました。いつか自分も、ここまで大事にされるような作品をうみだせるようになりたいと思いました。

◎学芸員さんに説明してもらえたので、より深くいろんな作品について知ることができ、ひとりで鑑賞していたら知ることができなかったことを知ることができたので、面白かったです。たくさんいろんなことを知ることができ、とても楽しく学習できました。将来、学芸員さんのような仕事についたらおもしろそうだと思いました。

教師の声

回答数…３２件(内、ボランティアサポートなしが４件)

■今回の学習を終えて、学習のねらいは（目標）は達成できましたか

①達成できた（３２）

・児童がとても興味を持って鑑賞を行うことができたため
・児童によっては、公共の場に慣れることを目標のひとつにしているため
・美術に触れる、楽しむという狙いは達成できたため　・好ましい態度で集団行動・体験ができたため

■当日の美術館側の対応について（ご意見・ご要望など）

①大変よかった（２７）　②良かった（５）

・事前の調整、計画のおかげで時間通りに流れ、スムーズに見学することができた
・博物館見学やふれあい体験もできてとても楽しかった・プログラムがしっかりできていて良かった
・各グループにボランティアさんが付き、丁寧に説明していただけたので良かった
・ガイドさんもゆっくり説明してくれて、対話スタイルで良かった
・富原先生やボランティアの方々の親しみやすい話し方で、芸術や文化に関心のなかった子供たちも瞳をキラキラさせているのが分かり、充実していた　・児童が触れられる作品も増えていったらいいなと思った
・事前の打ち合わせから当日まで、どのように生徒に興味関心を持ってもらえるのか心配だったが、美術館鑑賞プログラムの資料とデータをいただき、事前学習の取り組めたことで安心できた

■鑑賞を通して、子ども達の反応はいかがでしたか

①大変よかった（２１）　②良かった（１１）

・事前学習をしていたので、美術作品に親しみを感じて鑑賞していた　・みんな笑顔だった
・児童がいろいろな作品を見る楽しさに気付けていたのでとてもいい活動になった
・普段見ることのできない作品を見ることができて、とても満足していた
・2 時間のスケジュールでも飽きることなく鑑賞していた　・バックヤードが楽しかったという意見が多かった
・ひとつひとつを丁寧に鑑賞していて、楽しそうに自分なりのイメージや友達の感じ方について対話していた
・2 回目だった生徒もいたが、絵に興味を持っていて本物に触れさせる機会が大事であり、いい刺激になったと思うふれあい体験コーナーが一番喜んでいた　・学習した作品を探して楽しんでいた
・(ジブリ展)テレビや映画の中の絵が実物化されたり、実際に見ることができて大変満足していた
・実際の作品を鑑賞したことで、授業ではそこまで意見や思いを表出できない児童も絵に興味を示す様子があったのでとても良かった　・騒いで迷惑をかけることなく、対話をしながら鑑賞できた
・実際の絵を鑑賞したことで、授業では出てこなかった意見や新しい発見があって良かった
・普段何気なく鑑賞していた児童も、見る視点や見方が変わっているように感じた
・絵画や彫刻など言葉での表現は難しいが、じっと見ていたり笑顔で「これ何？」と聞いたり、興味を持って鑑賞していた
・鑑賞後も見た絵のことを話題にしていた　・子供たちの学校とは違う様子が見られて良かった
・はじめは緊張していたが、特に彫刻展と博物館では活発に活動できたように思う

■鑑賞をサポートしたボランティア員の対応はいかがでしたか

①大変よかった（２１）　②良かった（６）　③普通（１）　※サポートなし（４）

・ボランティアの方々の話し方がとても優しく丁寧だったので、子供たちも発言しやすかった
・子供たちの会話をたっぷり引き出してくれて、楽しんでいた　・熱意を感じた
・いろいろな視点を与えていただき、児童の鑑賞する意欲を喚起していただいた
・時間や作品に縛られず、子供たちが興味を持ったものに寄り添ってくれて良かった
・自由見学がほとんどのところと、細かく丁寧な説明のグループと、グループによって差があった気がした
・子供たちに合わせて誘導したり、作品に触れさせたり、話に耳を傾けて褒めてくださったりしてとてもありがたかった
・(サポートなし）難聴の生徒がいたので、もし説明があれば通訳して分かりやすかったかもしれない

■その他、ご質問やご感想がありましたら、ご記入下さい

・美術作品の鑑賞の仕方がわかり、今後の授業に活かしていきたい
・事前学習のプログラムなどがしっかりしており、学習してから絵を鑑賞したので、子供たちの反応も良かった
・博物館・美術館をとおして芸術作品の見方や注目するポイントなどが分かり、教師側も参考になった
・事前学習のデータや資料の貸し出し等、子供たちの興味関心を高める工夫がされていてスムーズに鑑賞することができた
・これからも美術館を活用して学習していきたい
・今度はゆっくり時間をかけて一つのブースを回りたい。また、特別支援の生徒(少人数)で体験させたい
・今度はバックヤード見学など、今回とは違う狙いで学習したい
・今回の学習を通して、子供たちの鑑賞する力、気付く力のすごさを再確認することができた
・本物を見ることで新たな発見や驚きがあり、鑑賞することの良さを今回の事業をとおして再確認できた
・予想していた作品以外に見入っていたり、児童が興味を持つ作品は実際に見せてみなければ分からないのだと思った
・学校から離れ、無料でこのような学習ができることは素晴らしいと思う
・生徒の班編成をもう少し配慮するべきだった
・事後にお預かりしたアートカードを使用した授業をした、子供たちの反応がとても良かった。今後もこのような学習を取り入れていきたい

鑑賞ボランティア活動報告

美術館のボランティアスタッフは、3 つのグループに分かれて活動している。その活動内容は、学校団体に向けた対話を通した鑑賞を実施するガイドボランティア、ワークショップをサポートするボランティア、美術関連書籍を整理する資料整理ボランティアと多岐にわたっており、それぞれが特技を活かし美術館の活動を盛り上げている。

津賀和枝（美術館ガイドボランティア）

ボランティアに携わって２年。以前から美術に興味があり、各地の美術館へ足を運んでいた私にとって好きな事で何かお役に立てればと思い「鑑賞ボランティア」を始めました。事前に行われた養成講座では、スタッフや講師の方々から充実した内容の講義や、「壺屋博物館」「首里城」の館外研修など貴重な体験をさせて頂いた事に感謝です。「鑑賞ツアー」では子供たちと一緒に作品を見ながら回っていると、様々な表情や言葉がはじけ出し、子供たちの目線から新しい発見やパワーをもらい私自身が成長している様で毎回ドキドキしながら楽しんでいます。これからもスタッフや先輩ボランティアの方々のアドバイスを頂きながら、少しでも子供たちが美術に興味を持ってもらえる様にお手伝い出来ればと思います。

●鑑賞ボランティア

大城妃菜子（ワークショップボランティア）

昨年度から引き続き“『OKINAWA』アートワークショップ”のボランティアスタッフに何度か参加しました。ボランティアでは、お手伝いをしながら参加者の方と共にワークショップを行う講師の方から、知識を学ぶ事ができました。

少しでも感心を寄せる事は、その後で実際に体験する際の真剣な表情にも、出来上がった時の充実したような表情にも繋がっていたのかなと思います。

●ワークショップボランティア

鑑賞ボランティア活動報告　振り返り

当館の登録を受けた鑑賞ボランティアのために、活動が効果的に進められるよう随時研修会を開催している。ボランティアは、作品の解説だけではなく生まれて初めて美術館に来る子供たちのために、ふれあい、対話の中で作品の楽しみ方を伝える。子どもたちと作品を見ることによって、自身の鑑賞の幅を広げ、より深いものにするために研修をおこなう。

講　座	プログラム	期日	内容
第１回	活動説明会＋振り返り	４月 17 日	前年度振り返り・美術班自己紹介・概要説明
第２回	鑑賞実践①＋勉強会	５月８日	展示場鑑賞
第３回	館外研修	６月 12 日	那覇市立壺屋焼物博物館
第４回	展示解説	７月 17 日	担当学芸による展示解説・展示室で作品検討
第５回	館外研修	８月 21 日	西村貞雄氏　首里城巡見
第６回	展示解説	11 月 13 日	担当学芸員による解説
第７回	今年度の振り返り	３月末日	今年度を振り返り（成果と課題）

【第２回　5/8 鑑賞実践①＋勉強会】

●各自で絵を見る視点や感覚が異なるので、作品につき多用な見方ができ鑑賞の幅が広がった。初めての絵に相対するのでわかりやすく五感に訴えた見方が良い（視覚、味覚、聴覚、におい、感じ）

●アートカードを使ってのグループ学習は、お互いの感想や意見が出しやすくスムーズにできました。アートカードの解説書に作者や年代も表記してあるのでわかりやすかったです。お気に入りのアートカードの集計も表示してあって参考になりました。

【第３回　6/12　壺屋焼物博物館】

●学芸員の比嘉さんのガイダンスは流暢で大変わかりやすかった。
壺屋の戦後復帰（再生）が円滑にやられたのは奇跡ではなく、関係者（職人達）のあつい情熱がいっぱいあったからと、彼らにリスペクト。市街地の環境問題という時代の流れで、登り窯が廃止されガス化、以降読谷やちむんの里で登り窯が復活して今がある、その底力に職人魂がシッカリと感じられた。絵画とは異なる趣の沖縄陶芸の世界を垣間見ることができ、今回の企画に感謝します。

【第４回　7/17　担当学芸による展示解説・展示室で作品検討】

●沖縄の歴史の理解が求められていると思った。その上での作品のもつ意味合いを考え、鑑賞者達（生徒達）の思い、思考を促していけたらいいのかなと。とくに自分なりに情報の整理が必要と感じた。

●5/8 鑑賞実践①＋勉強会

●6/12 壺屋焼物博物館

●担当学芸による展示解説

学芸員実習

美術館では、開館 3 年目の 2009 年から実習受入を行っている。受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の（琉球大学、県立芸術大学）を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れている。定員は１０名以内としている。時期は８月中旬から２週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義にあたっている。今年度は県内の沖縄県立芸術大学の８名を受け入れた。

【美術館学芸員実習カリキュラム】　　期間　2019/8/19～8/30

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第１日	月	開講式、ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、ＩＰＭ	業務の考え方・博物館施設説明
第２日	火	美術館活動の概要及び施設・設備	常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究
第３日	水	共通課題研究、収集事業概要	資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ
第４日	木	共通課題研究、資料の分類	常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際
第５日	金	共通課題研究、常設展の実際Ⅲ	調査研究概要、企画展の実際Ⅰ
第６日	月	共通課題研究、資料に関する情報処理	立体資料の取扱い実習（彫刻）
第７日	火	共通課題研究、平面資料の取扱（油彩・水彩画）	平面資料の取扱い（版画）
第８日	水	共通課題研究、教育普及Ⅱ	平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ
第９日	木	共通課題研究、作品調査の方法	平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ
第 10 日	金	共通課題発表、平面資料の実習Ⅴ	実習のまとめ、閉校式

●作品状態調査

●立体の梱包

●首里城巡見

●教育普及プログラム

●資料整理

●共通課題発表

【実習生の声】

●自分が今まで知らなかった沖縄芸術について勉強する機会もたくさんあり、知識を身に着けていくことがとても楽しかった。普段は一人での制作が多いので実習中や共通課題を通して人とのコミュニケーションを取りながら取り組むことの楽しさや難しさを学び、とても良い刺激を貰いました。

●貴重な経験をさせていただき有意義な実習となりました。これからも継続的に沖縄や美術に対する関心を持ちつつ、美術を通して自分が社会に何を還元できるのかを考えていこうと思います。学芸員はそれぞれの仕事に自信や責任をもっていて、資料に対する真摯な姿勢が仕事につながっていると感じました。美術館の裏側を知ることで資料や美術の本当の価値に目を向けることができました。

アートコンクール

今年度も、児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指した。第 3 回目は「未来」あなたにとっての未来とは・・をテーマに作品を募集した。沖縄県造形教育連盟と美術館班職員が審査に携わり、936 作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞に選ばれ、11 月 3 日に表彰式を挙行した。当日は、入賞者のご家族にたくさん列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

（展示期間 2019/10/29～11/27）

令和元年度　沖縄県立博物館・美術館企画　　第 3 回アートコンクール　入賞者

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部
最優秀賞	◎山城大空 国頭村立辺土名小　5 年	◎知花美沙 国頭村立国頭中　3 年	◎大城杏奈 沖縄県立那覇高　3 年	◎高橋琉華 沖縄県立美咲特別支援学校 はなさき分校　高等部 2 年
優秀賞	◎東江健太 沖縄市立安慶田小　6 年 ◎金原はな 浦添市立港川小　4 年	◎根路銘諒香 那覇市立石田中　3 年 ◎屋良美稀乃 那覇市那覇中　3 年 ◎名城咲希 那覇市那覇中　3 年 ◎中村唯梨乃 私立昭和薬科附属中　3 年	◎伊良波 藍 沖縄県立首里高　3 年 ◎山田春香 沖縄県立開邦高　1 年 ◎大城百合愛 沖縄県立球陽高　1 年 ◎山川 凛 私立興南高　1 年	◎伊禮魁成 沖縄県立美咲特別支援学校 はなさき分校　高等部 3 年 ◎新垣仙太郎 沖縄県立島尻特別支援学校 小学部 6 年
優良賞	◎仲程一樹 西原町立坂田小　2 年 ◎山田琉友 私立デモクラティック スクールみいち 3 年 ◎高江洲七海 沖縄市立高原小　2 年	◎宮城里采 那覇市立上山中　2 年 ◎寺田詩望 那覇市立上山中　2 年 ◎金城ナキア 那覇市立上山中　2 年 ◎吉元創史 那覇市立上山中　2 年 ◎玉城春陽 糸満市立西崎中　1 年 ◎趙　蘭 沖縄県立開邦中　1 年	◎喜納政太 沖縄県立首里高　2 年 ◎城間千裕 沖縄県立首里高　1 年 ◎與那嶺莉来 沖縄県立首里高　1 年 ◎上原蒼良 沖縄県立北谷高　2 年 ◎平良珠朱 沖縄県立開邦高　3 年 ◎福島あかり 沖縄県立小禄高　1 年	◎儀間栄晃 伊江村立伊江小学校 特別支援学級 2 年 ◎前代音藍 沖縄県立美咲特別支援学校 はなさき分校　高等部 1 年 ◎金城悠介 浦添市立当山小学校 特別支援学級 4 年
優秀団体賞	◎沖縄市立安慶田小学校 ◎糸満市立真壁小学校	◎那覇市立上山中学校 ◎宜野座村立宜野座中学校 ◎沖縄県立開邦中学校	◎沖縄県立首里高等学校	◎浦添市立当山小学校 特別支援学級

●表彰の様子

●記念撮影

アートコンクール審査講評

アートコンクール審査講評

【小学校の部】◎有川 愛乃 先生(県立開邦中学校)
◎比嘉 光里 先生（県立那覇国際高校）

楽しく暮らす未来を描いた夢のある作品が多くありました。いろいろな画材や想像する未来への世界観を表す工夫が絵の中に詰め込まれていて、楽しみながら描いているのが伝わりました。この情熱を忘れずに表現することを楽しんでいってください。

【中学校の部】◎二宮 陸生 先生（西原町立西原東中学校）

中学生が描く「未来」は、テーマも表現方法も実に多様。そして多くが希望にあふれ、自立していこうとする自分をまっ直ぐに見つめていました。たくさんの素晴らしい作品の中で、自分の写真を画面に貼って、その上から自由に描きこみ、自分にとっての未来を探求させている学校の取り組みに好感が持てました。

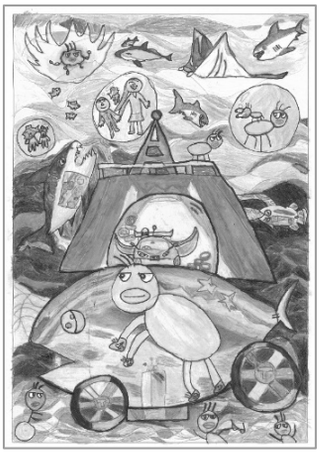
【高校の部】 ◎喜名 由香利 先生（県立本部高等校）

いろいろな画材を用いて、個々のテーマに添った表現に挑戦していました。また「未来」に対する発想も様々で、楽しく審査できました。特に入賞作品は構図や配色もしっかり考えており、見ごたえのある作品になっていました。

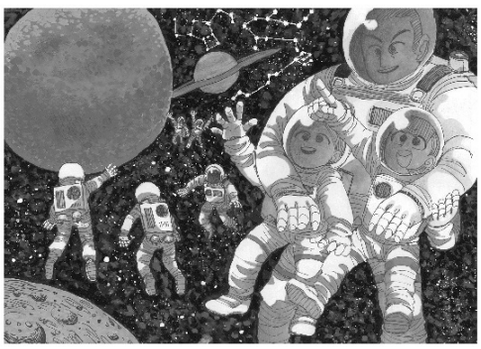
【特別支援の部】
◎下地 敦先生
（県立美咲特別支援学校はなさき分校）

自分の住みたい家や大切にしたい友達、なりたい自分など、皆さんの想像した未来はとても明るく描かれていました。いきいき、のびのびとした表現は明るい未来につながっていくと期待しています。

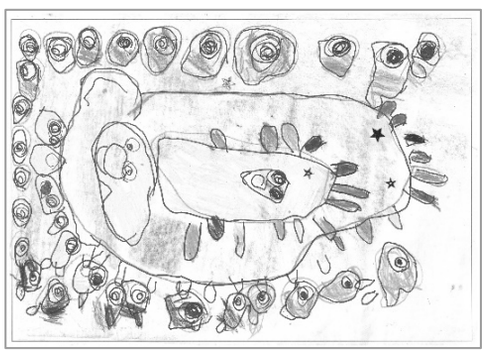
最優秀作品



◎山城大空
（やましろたく）
国頭村立
辺土名小５年



◎知花美沙(ちばなみさ)国頭村立国頭中　３年



◎高橋琉華(たかはしるか)県立美咲特別支援学校
はなさき分校　高等部２年

◎大城杏奈(おおしろあんな)
沖縄県立那覇高　３年

●審査の様子

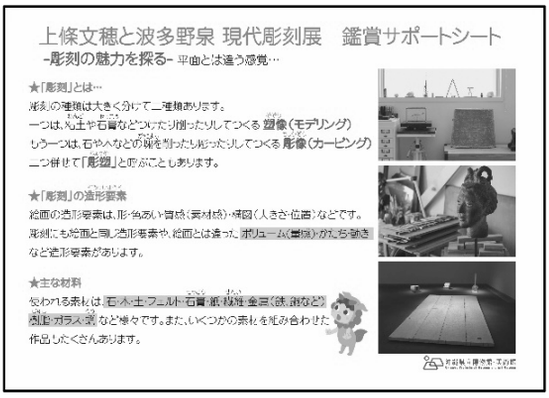
ワークシート

今年度は、通年で展示を行うコレクション３「沖縄美術の流れ」の鑑賞をサポートするワークシートと、企画展「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」「作家と現在」のサポートシートを作成した。
コレクション展のワークシートでは、中学校鑑賞プログラム「ニシムイ」に連動する内容も加わり、正解を求めない問いかけを行い、各自が自分の視点で作品鑑賞の手助けができるように工夫した。
館内で鑑賞したワークシートを学校でも活用、評価できるように学校連携鑑賞支援プログラムの一つとして、広報に当たった。

【表面】

【裏面】

「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」

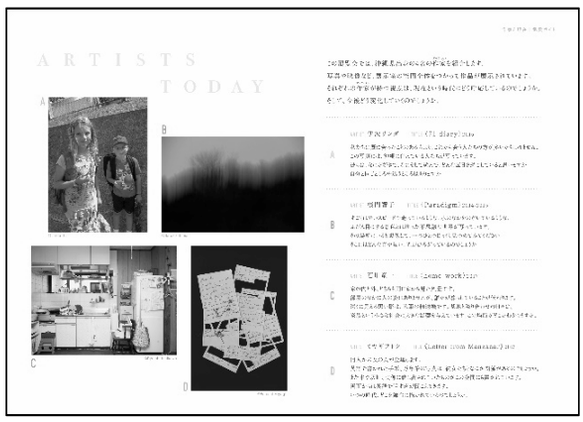


【表面】

【裏面】

「作家と現在」

【表面】



【裏面】

中学校鑑賞プログラム

中学校鑑賞プログラム　　美術館と学校との連携の取り組（中学校編）

1．ねらい

終戦後の沖縄の美術界を牽引したニシムイ美術村に集った画家達の功績を当時の沖縄の社会の様子も学びながら理解する。→沖縄美術史

2．学校との連携の取り組み

（1）美術館と学校の授業との連携

※北部・中部・南部の学校又は美術部
①学校がバスをチャーター　（実費）
②美術館がバス２台までチャーター（招待）

※美術館近辺の学校
①公共交通機関を利用する
②学校車・学校がバスをチャーター

※内容
①パワーポイント教材「ニシムイ」の説明
②美術館での作品鑑賞
③館内ワークシートでまとめ

（2）来館までの流れ

①ニシムイ鑑賞を美術の授業として位置づける。美術館団体鑑賞を活用する。時間数　２～４時間
※美術館から遠距離(南部・中部・北部)にある学校の場合　※美術館がバスの手配をする→年に２校

学校への出前レク
ニシムイ作品をもとに鑑賞の仕方を美術科教師にレクチャー

→ **美術でニシムイ鑑賞授業**
美術担当が資料を使って鑑賞授業を行う

→ **美術館での作品鑑賞**
団体で作品鑑賞

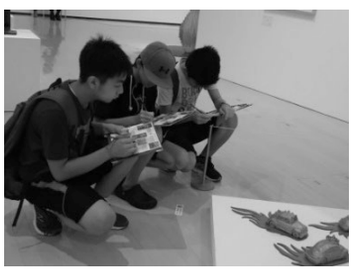
②ニシムイ鑑賞を美術の授業として位置づける。生徒が自主的に美術館を訪れる。時間数　２時間

※美術館近辺(那覇・浦添地区)にある学校の場合

学校への出前レク
ニシムイ作品をもとに鑑賞の仕方を美術科教師にレクチャー

→ **美術でニシムイ鑑賞授業**
美術担当が資料を使って鑑賞授業を行う

→ **美術館での作品鑑賞**
各自で美術館に行き、美術館ワークシートで作品鑑賞



3．当館との連携の利点

○ニシムイ画家の作品を通して、当時の生活や社会背景を理解する美術館ならではの貴重な現物をみることができる。

○ニシムイ画家の作品や人物像などについて、調べた成果を美術館で確認できる。

○美術館でのボランティアとの作品鑑賞により、対話を通して見方、考え方を広げることができる。

○美術館の学芸員や関係者による解説でより深く学ぶことができる。

OKINAWA アートワークショップ 2019 ①

沖縄県立美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを昨年に続き実施した。身近なモノで作品づくりが出来る素晴らしさや、アイデア・発想につながる考え方の修得など、楽しみながら学ぶことを意識し実施したことで、県内遠方や県外からの参加者も増え、沖縄の伝統工芸に対する関心の高さを再確認した。出来上がった作品に満足する様子がどのワークショップでも見られ、次年度以降も継続していきたいと考えている。

	講師（県内・県外）	内　　容
第１回	上原俊展（金細工まつ）	錫で豆皿をつくろう
第２回	伊是名教子・中島トモ子	沖縄の植物クロトンで押し花アート
第３回	若山大地・若山恵里（スタジオ de-jin）	石獅子　守り神つくり
第４回	山城富函・大城幸祐・田端忠・神里善則 城間盛行（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）	漆喰シーサーに挑戦
第５回	山城信吾・吉濱愛（城紅型染工房）	干支紅型でお正月仕度
第６回	前田春城・前田貴子（琉球漆紀行） 森田敦子（工房ぬりトン）	琉球漆器　沈金を楽しもう

●第１回　錫で豆皿をつくろう

●第２回　沖縄の植物クロトンで押し花アート

OKINAWA アートワークショップ 2019 ②

●第３回　石獅子　守り神つくり

●第４回　漆喰シーサーに挑戦

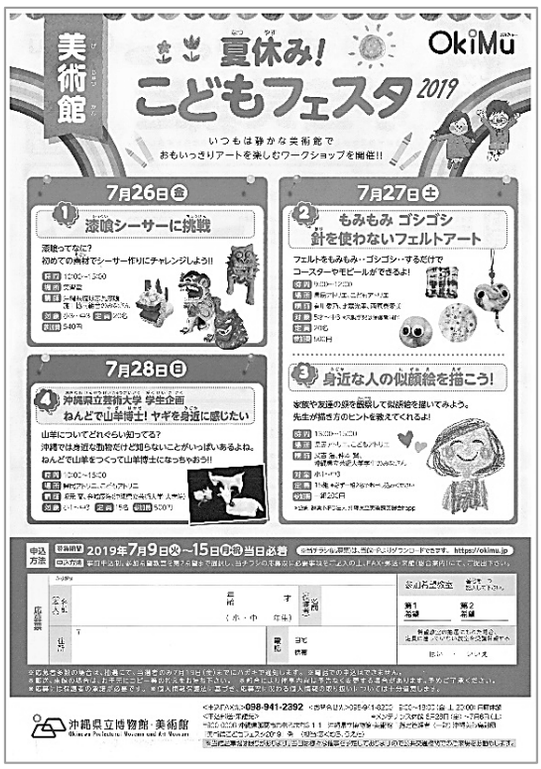
●第５回　干支紅型でお正月支度

●第６回　琉球漆器　沈金を楽しもう

夏休みこどもフェスタ①

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタは、ＮＰＯ法人美術館支援組織 happ との共催で 7 月 26 日（金）・27 日（土）・28（日）の 3 日間実施し、昨年に続き沖縄県立芸術大学の学生も講師を務めた。未就学児から中学生まで幅広い層の参加があり、楽しむ姿が伺えた。各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的とした。

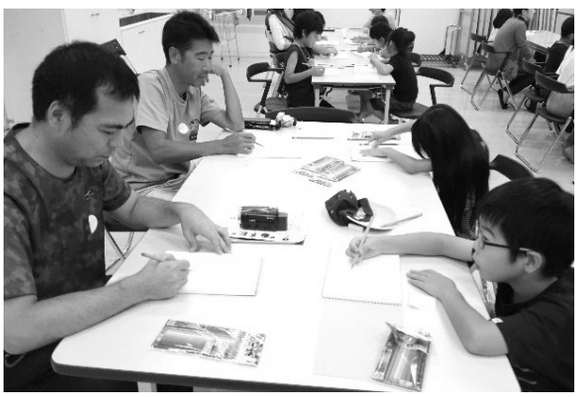
日程	午　前	午　後
7/26（金）	（1）漆喰シーサーに挑戦（10:00～15:00） 講師 ： 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合　場所： 博物館実習室 定員 ： 20 名　対象 ： 小 3～中 3	
7/27（土）	9：30 ～12：00	13：00～15：00
	（2）もみもみゴシゴシ 針を使わないフェルトアート 講師：有川愛乃・比嘉光里・西原真愛美 場所：県民・こどもアトリエ 定員 ： 20 名　対象 ： 5 才～中 3	(3)身近な人の似顔絵を描こう 講師：又吉浩・仲本賢 県芸大学生　★happ 事業 場所：こどもアトリエ 対象 ： 小 1～中 3
7/28（日）	(4)沖縄県立芸術大学　学生企画　ねんどでヤギ博士！ヤギを身近に感じたい（10:00～15:00） 講師：県芸大学生（坂元蘭・金城辰海）　場所：子どもアトリエ・県民アトリエ 定員 ： 15 名　対象 ： 小 1～中 3	



夏休みこどもフェスタ②

●漆喰シーサーに挑戦

●もみもみゴシゴシフェルトアート



●身近な人の似顔絵を描こう

●ねんどでヤギ博士！

移動展 in 伊江島

移動展とは、日常的に当館に足を運ぶことが難しい離島の方々へ博物館資料や美術作品を公開する機会を提供する趣旨から、毎年開催している。今回は、伊江島で 3 日間に渡り開催した。

今回の移動展では 3 年ぶりに美術館収蔵作品を公開することができた。そして美術館所蔵の修復映像をデジタル化した映画を開催期間中上映した。主会場となった伊江村農村環境改善センターには、多くの来館者が集まった。

●日　　程　　2020 年 1 月 31 日（金）～2 月 2 日（日）

●内　　容

○美術館展示　収蔵作品（彫刻 5 点・絵画複製 2 点）

○これまでの展覧会概要パネル

○県出身映画監督作品　《執念の毒蛇》上映

○教育普及教材「ニシムイ」○教育普及活動　ワークショップ（石獅子づくり）

●来場者数　　伊江村農村環境改善センター　　910 人

○1/31 日（金）/301 人（70 歳以上 8 人、一般 83 人、高大 5 人、小中 135 人、未就学児 70 人）

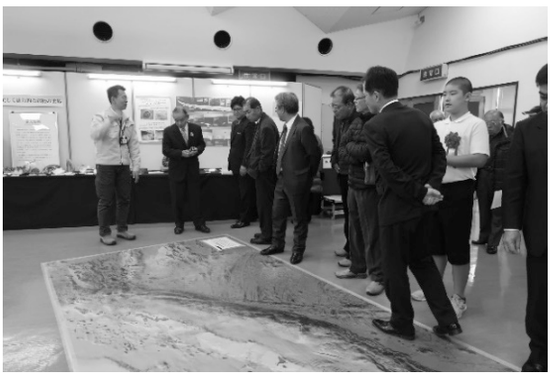
○ 2/1 日（土）/302 人（70 歳以上 11 人、一般 104 人、高大 6 人、小中 118 人、未就学児 63 人）

○ 2/2 日（日）/307 人（70 歳以上 24 人、一般 106 人、高大 43 人、小中 97 人、未就学児 37 人）

●オープニング

●会場案内　美術館

●幼稚園生鑑賞の様子



●会場案内　博物館

移動展 in 伊平屋島　展示・ワークショップ

移動展 展示

移動展（伊江島）立体・映像作品リスト

	作品名	作家名	規格	素材	制作年
1	目しいた野良猫	玉那覇　正吉	H430×W160×D180	ブロンズ	1968
2	少年像	玉那覇　正吉	H365×W180×D240	ブロンズ	1978
3	ポライオーロ	丸山　映	480×300×295	ブロンズ	1977
4	僻日	西村　貞雄	961×1529×1019	ブロンズ	1977
5	虎	ゴヤ　フリオ	2035×952×495	ステンレス	2005

	作品名	作家名	時間	種別	制作年
1	執念の毒蛇	吉野　二郎	70分46秒	DVD	1931
2	ニシムイ中学校鑑賞教材	教育普及	10分	DVD	2019

移動展（伊江島）複製絵画作品リスト

	作品名	作家名		種別	制作年
1	貴女を愛する時と憎む時	山元恵一	915×1830	変形120油彩	1951
2	窓	南風原朝光	1210×1017×72外寸	F40油彩	1954

―複製画の制作―

移動展初披露！沖縄の美術を知るために重要なコレクション２点の絵画を複製画で楽しんでいただいた。学芸員の作品解説や、絵画鑑賞の楽しみ方を伝えることができた。

移動展 ワークショップ

海とサンゴが作り出した伊江島の石で、石獅子つくりに挑戦した。講師に若山大地氏、津波夏希氏をお招きし、午前７組、午後７組の親子、一般が自分のオリジナルの守り神づくりに楽しんだ。

●彫刻作品

●複製絵画作品

●ブロンズ作品の感触

複製画制作

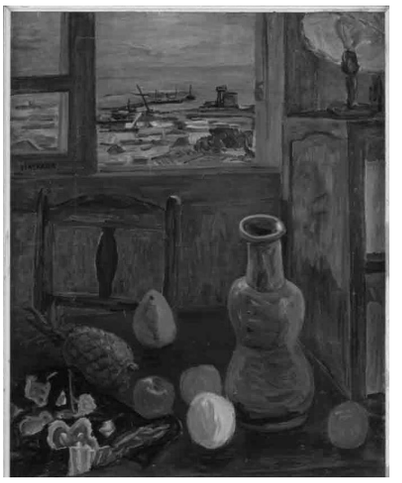
現在美術館が収蔵する各種美術作品は、保存管理の面から館外持ち出しを制限しているため、収蔵品を見るためには当館へ直接来館してもらうしかない。

美術館教育普及事業の一つとして実施している「美術館出前授業」においては、収蔵作品を紹介する必要性がある。授業展開を深める目的で、できるだけ原画に近い色合いや大きさに近づけ、紙に印刷したものを授業では利用していたが、子どもたちには原画と思わせるような作品を鑑賞させたいと感じていた。

昨年度から進めてきた複製画制作計画は、関係者間で何度も意見交換と作品選定を行った上で制作し、今年度の「美術館出前授業」・「移動展」での活用が実現した。

当館収蔵作品の複製画を制作することにより、その活用が積極的に行われ、作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味関心を抱かせる機会につながればと考えている。

●山元恵一《貴方を愛する時と憎む時》1951 年



●南風原朝光《窓》1954 年

●作品撮影

●色校正の様子

●納品

●移動展複製展示の様子

美術館　職場体験

職場体験とは、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事を実際に体験したり、働く人々と接したりする学習活動である。美術館・博物館では、バックヤード施設見学や展示室で鑑賞プログラムを体験したり、学芸員の仕事の手伝いをする。接客業務や企画展の交流員として、お客様の対応にも挑戦できる。多くの仕事に触れられる内容としている。

回	期　日	曜日	学校名	参加者
1	6 月 26 日	水	那覇市立小禄中学校（2 年）	4
2	7 月 10 日	水	沖縄県立沖縄水産高等学校（2 年）	2
3	7 月 31 日	水	アメラジアンスクール・イン・オキナワ（3 年）	3
4	9 月 18 日	水	沖縄県立沖縄工業高等学校（2 年）	4
5	12 月 18 日	水	浦添市立仲西中学校（1 年）	4
6	1 月 22 日	水	那覇市立安岡中学校科（特別支援学校）	6

●新聞記事スクラップ

●チラシ郵送準備

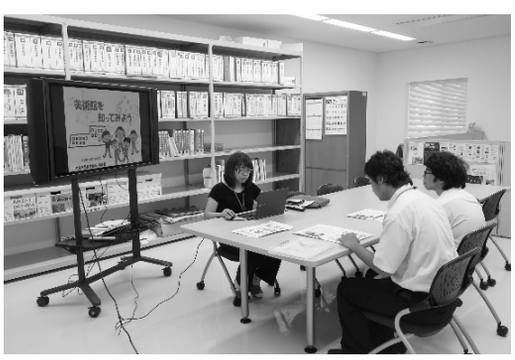
●図録郵送準備

【学校と社会をつなぐ場】

生徒は、職場体験を通して、学校での学習が社会でなぜ大切なのか、どのように役立つのか、実際に仕事をしていく上でどのように用いられるのかを知ることができる。それは同時に、現在の学習と将来の職業生活との関係を理解し、目的を持って学習に取り組む上での重要な契機ともなる。「働くこと」から疎遠になりがちな今日の子どもたちにとって職場体験は、こうした現状を打開し、体験を通して学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感をもって理解していくという大きな役割がある。

【生徒の声】

３日間を通して学んだことは、お客様への配慮はもちろんのこと、大人たちだけではなく、子どもたちにも興味を惹きやすくし、後世の人たちにも資源を残していく、各部署での工夫にとても驚きました。



●美術館概要説明

伊志嶺隆と平敷兼七展

（会期：平成 31 年 1 月 12 日（土）～令和元年 6 月 24 日（月））

伊志嶺隆（ISHIMINE Takashi 1945-1993)と平敷兼七（HESHIKI Kenshichi 1948-2009）は、同年代に生まれた沖縄の写真家である。ふたりは沖縄の日本への復帰という激動の時代において、沖縄をどのように撮るべきかを模索し、独自の表現を切り開いていった作家といえる。本展では、当館所蔵の作品とともに関連資料を紹介し、ふたりが独自の表現を見いだすまでに至った足跡をたどる。（亀海史明）

みどころ

今回の展覧会では、ふたりの写真家の初期作品に注目した。特にふたりの東京時代については、伊志嶺隆が撮影した東京や近郊の米軍基地周辺の写真、および平敷兼七の卒業制作《日常性》など、今回の展覧会に合わせて行った調査をもとに紹介した。

□ギャラリートーク

【日　時】平成 31 年 4 月 27 日（土）14:00～15:30
【会　場】美術講座室・コレクションギャラリー1・2
【参加者】38 人
【講　師】友寄寛子（写真史）
【内　容】伊志嶺隆の研究者である友寄寛子氏をお招きし、伊志嶺隆作品の魅力について解説した。

●友寄寛子氏

□シンポジウム

【日　時】令和元年 6 月 8 日（土）14:00～16:00
【会　場】講堂
【参加者】64 人
【講　師】倉石信乃（明治大学教授）
翁長直樹（元沖縄県立博物館・美術館副館長）
仲里効（映像・文化批評家）
【内　容】伊志嶺と平敷が学生時代に撮影した作品や 2 人がたどった足跡、当時の社会的背景を通して、彼らがどのように沖縄を見つめたのか、それぞれの作家の視点を各パネリストの発表により紹介し、その後ディスカッションを行い、ふたりの作風とその独自性について、議論を深める場となった。

●ギャラリートークの様子

●シンポジウムの様子

金城安太郎展

（会期：令和元年 7 月 13 日（土）～令和元年 10 月 13 日（日））

新聞連載小説や雑誌の表紙絵などの挿絵画家としても知られている金城安太郎（きんじょうやすたろう／1911-1999）。近年、金城が顔彩や墨で描いた 11 枚の原画と、その下図が見つかった。それは《今帰仁城盛衰記》と題され、40 年ほど前にテレビ番組のため描いた作品である。本展では、金城安太郎の日本画作品を中心に紹介する。（梶原正史）

【展示構成】

第１章　金城安太郎（1911-1999）の仕事

第２章　《今帰仁城盛衰記》について

第３章　安太郎と「描く」こと

□ギャラリートーク

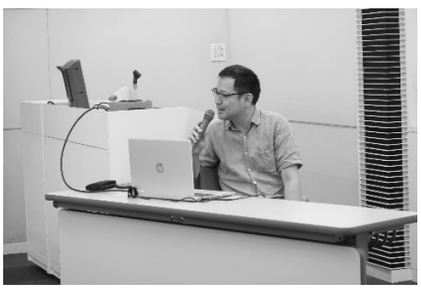
【日　時】令和元年９月７日（土）１４：００～１５：３０

【会　場】美術講座室

【参加者】17 人

【講　師】金城美奈子（一般財団法人 沖縄美ら島財団学芸員）

【内　容】沖縄挿絵界の第一人者として活躍した金城安太郎の多彩な才能と幅広い画業、その作品の魅力について解説した。



□キュレータートーク+学芸員講座

【日　時】令和元年 10 月５日（土）１４：００～１５：３０

【会　場】美術講座室

【参加者】17 人

【講　師】梶原正史（美術館修復担当学芸員）

【内　容】作品を修復・保存していくことは美術館の大きな役割の一つ。沖縄では、戦争や高温多湿の気候風土の影響により、作品の痛みが激しい。当館における保存修復の現状について説明するとともに、最新の絵の具分析によって得た知見を説明した。

沖縄を描いた画家 1930-1950’s

（会期：令和元年 7 月 13 日（土）～令和元年 10 月 13 日（日））

1930 年代の日本では、沖縄への観光が流行し、多くの日本人画家が沖縄を描いた。戦前戦後を通じて、沖縄の画家との交流で生まれた県外の画家による作品は、沖縄の姿を捉えた貴重なものといえる。本展では、藤田嗣治、北川民次、山川清、川端彌之助、伊藤清永、斧山萬次郎、鳥海青児など県外画家の作品と、宮平清一，読谷山朝典、宮城与徳、糸数晴甫、親泊英繁など、同時代の沖縄の画家による作品とを比較し、テーマの捉えかたによる表現の違いについて、検証した。　（豊見山 愛）

【展示構成】

第１章　沖縄近代洋画運動の幕開け

第２章　沖縄戦と画家たち

第３章　それぞれが描いた沖縄

第４章　収容所内の画家たち

第５章　南へのあこがれと画題

□学芸員講座・キュレータートーク

【日　時】令和元年 8 月 31 日（土）14:00～15:30

【会　場】美術館講座室

【参加者】21 人

【講　師】豊見山愛（調査研究担当学芸員）

【内　容】県外と県内の作家の交友関係、作家たちの作品を比べながら新たな作品の見方について解説した。

●豊見山学芸員

□ギャラリートーク

【日　時】令和元年 9 月 28 日（土）14:00～15:30

【会　場】美術館講座室

【参加者】20 人

【講　師】滝沢恭司

（町田市立国際版画美術館担当課長・学芸係長）

【内　容】美術講座「南洋群島と美術家」

明治以降、南方への憧れやゴーギャンに影響され、「南洋群島」と 呼ばれた、ミクロネシアの島々で作品を制作していた日本人芸術家について、当時の情勢など歴史を踏まえながら解説した。

●滝沢恭司氏

●美術講座の様子

真喜志勉ドローイング展

（会期：令和元年 10 月 19 日（土）～令和 2 年 2 月 9 日（日））

TOM MAX の名で知られる画家・真喜志勉（1941～2015）は、水彩や油画、版画、漆喰など、様々な技法で表現を行った。本展ではその中でもドローイングに焦点を当て、晩年から高校時代までさかのぼる形で作品を紹介する。

1972 年のアメリカ遊学を経て、1980 年代前半に至るまでの真喜志の作品には、ドローイング（線画）によるイメージの反復が見られる。次第に作品は黒・白・グレーの画面へ収斂し、90 年代になると漆喰を用いた「壁面」のシリーズへと移り替わり、ドローイングの作品は少なくなっていった。

2005 年以降、真喜志の画面には再びドローイングが増えていった。その前年の 8 月に起こったのが、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事件であった。以降今に至るまで、辺野古問題など基地を取り巻く数々の現実が、沖縄には横たわり続けている。アメリカの文化への憧憬、そして米軍基地を取り巻く沖縄の現状に対する憤り。アンビバレントな真喜志の描線は今もなお、沖縄の現状をアイロニックに浮かびあがらせ続けている。

（大城さゆり）

□ギャラリートーク

【日　時】令和元年 12 月 7 日（土）14:00～15:30
【会　場】美術講座室・コレクションギャラリー1
【参加者】39 人
【講　師】宮城明（美術家）・仲里効（映像・文化批評家）
【内　容】今年収集した作品およびご家族から借用したスケッチブック等を展示している。真喜志のアメリカ経験が作品に及ぼした影響について考える。

□学芸員講座＋キュレータトーク

【日　時】令和 2 年 1 月 11 日（土）14:00～15:30
【会　場】美術館講座室・コレクション 1
【参加者】32 人
【講　師】大城さゆり（美術館展示公開担当学芸員）
【内　容】真喜志が学生時代に描き残した膨大なスケッチについて、今回の展示に向けて行った調査の報告をした。

作家の視点・作品の視点

（会期：令和元年 10 月 19 日（土）～令和 2 年 2 月 9 日（日））

あるひとつの作品に対する見方は複数考えられる。作品に対して抱く印象は、観る人に応じてさまざまである。本展では、当館所蔵のコレクションから作品をピックアップし、それぞれの作品から浮かび上がってくる視点の多様さについて、作品とともに紹介する。今回のコレクション展では、作品における図と地の関係に注目し、ひとつの作品から浮かび上がる複数の視点を検証する。　（亀海史明）

◆内間安瑆

沖縄をルーツとする渡米作家、内間安瑆（1921-2000）は、それぞれ独自の視点をもって作品に取り組んだ。内間の〈Forest Byobu〉シリーズとその創作性に触れ、各々の作家の作風に迫る。

◆野村恵子、竹川宣彰、アマンダ・ヘン

母方の祖父母が沖縄人である野村恵子は、個展「越南花眼」でベトナムの写真を発表、写真を観た沖縄出身の親戚から「沖縄の匂いみたいなものを感じる」と聞き、そののち沖縄を撮影した〈Deep South〉シリーズを手掛けた。竹川宣彰（1977-）は〈身のまわり品のセイリングチャート 地図のドローイング〉シリーズで、地形を描くことで完成してしまう地図に身のまわりのものを差し挟み、作品の世界に割り込む。アマンダ・ヘン（1951-）は、家父長制の根強いシンガポールの出身だが、40 代になり、改めて母と娘の関係だけではなく、独立した女性同士の関係を、写真を通して結び直している。それぞれのアーティストが問おうとした視点とはなんだったのかを、展覧会を通して考察する。

□学芸員講座＋キュレータトーク

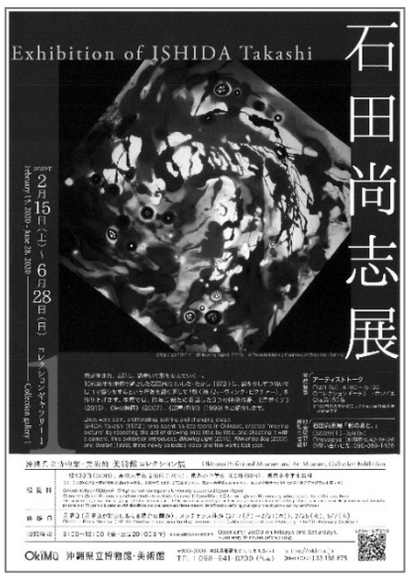
【日　時】令和 2 年 1 月 19 日（日）14:00～15:30
【会　場】美術館講座室・コレクション 1
【参加者】2 人
【講　師】亀海史明（美術館収集担当学芸員）
【内　容】学芸員の日常業務を中心に、作品の収集、展覧会の開催など、美術館に期待される主要な役割を紹介しつつ、様々な役割を兼ね備える学芸員という仕事について解説を行った。

●亀海学芸員キュレータトーク

石田尚志展

（会期：令和２年２月15日（土）～令和２年６月28日（日））

昨今、現代美術及び映像の領域で大きな注目を集める石田尚志（いしだたかし 1972-）。抽象的な線を少しづつ描いてはコマ撮りするという行為を繰り返して、「動く絵（ムービングピクチャー）」を創り上げている。本展では、石田の代表的な映像作品を紹介する。（大城さゆり）



□ギャラリートーク（コロナウィルス蔓延防止のため中止）

【日　時】令和２年３月１日（日）14:00～15:30

【会　場】美術講座室・コレクションギャラリー1

【講　師】石田尚志（美術家）

【内　容】今回は彫刻制作に至った過程をお話ししていただき、併せて彫刻を即興的に組み立てるパフォーマンスを行う予定であった。

大城精徳の仕事

（会期：令和２年２月15日（土）～令和２年６月28日（日））

本展は、大城精徳（おおしろせいとく 1928-2007）の絵画と資料が一堂に会する展覧会である。大城は、沖縄画家・名渡山愛順に師事し琉球美術展をはじめ、戦後草創期のグループ展に名を重ね、琉球政府立博物館の学芸員を辞してからは琉球文化社を設立し、雑誌「琉球の文化」を刊行、美術工芸論の発展に寄与した。今回は未発表の油彩と水彩 22 点の作品と、資料を提示する。（豊見山愛）

□ギャラリートーク＋キュレータトーク

【日　時】令和２年２月29日（土）14:00～15:30
（コロナウィルス蔓延防止のため延期）５月～６月開催予定

【会　場】コレクションギャラリー2

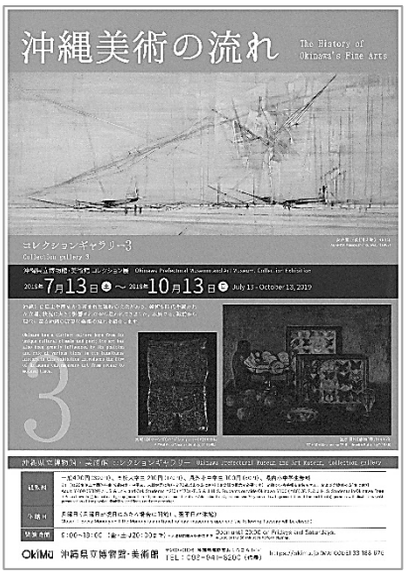
【講　師】星雅彦（美術評論家）
宮城篤正（元・沖縄県立芸術大学学長）

【内　容】1981 年に「新生美術協会」を設立した際にもかかわりの深い、美術評論家の星雅彦氏と、博物館時代の部下で首里高校でも大城の教え子でもあった、画家の宮城篤正氏をお招きしてギャラリートークを行い、大城精徳が沖縄の文化に寄与したことについて話しあう予定であった。

沖縄美術の流れ

（会期：前期◆令和元年 7 月 13 日（土）～令和元年 10 月 13 日（日））
（会期：中期◆令和元年 10 月 19 日（土）～令和 2 年 2 月 9 日（日））
（会期：後期◆令和 2 年 2 月 15 日（土）～令和 2 年 6 月 28 日（日））

本展は、当美術館が調査し収集したコレクションのなかから選んだ 30 点から 50 点程の美術作品を紹介するものである。沖縄にはその風土や歴史から育まれてきた独自の文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場、状況に大きく影響されながら培われてきた。沖縄を中心に日本や海外で生み出された沖縄ゆかりの作品も併せて紹介する。（大城さゆり）



【展示内容】

第 1 章　　日本化と近代化
第 1 章-2　戦時中
第 2 章　　焼け跡からの新たな出発
第 3 章　　移り行く景色の中で
第 4 章　　いま、ここを見つめる
第 5 章　　UCHINANCHU

□ギャラリートーク

【日　時】令和元年 12 月 21 日（土） 18:00～19:30
【会　場】美術館講座室
【参加者】53 人
【講　師】山城知佳子（アーティスト）
【内　容】最新作《チンビン・ウエスタン『家族の表象』》の構想から完成に至るまでのエピソードやデビュー作から現在まで続く作品のテーマなど、作家が日頃から考えていることについて話した。

【参加者の声】

●フロンティア精神に由来することに気づかされ、とても考えさせられる作品でした。自然を大切にする気持ちと現実の生活を維持する矛盾との間に悩む。ぜひ沖縄の人たちに見てほしい作品でした。作品に対する深い思いが聞けて良かったです。

●これからの活躍楽しみです。いろいろ考えさせる機会を作っていただきありがとうございました。

●ギャラリートークの様子

上條文穂と波多野泉 現代彫刻展

（会期：令和元年 9 月 20 日（金）～令和元年 11 月 4 日（月））

本展覧会は、沖縄で活動する彫刻家・上條文穂と波多野泉を紹介するものである。

上條文穂（1953-）は、1986 年から 2019 年 3 月まで沖縄県立芸術大学で教鞭を執り、石灰岩や漆喰、沖縄の土を使ったテラコッタなど、沖縄の素材を用いた大型彫刻を制作している。また那覇市で野外彫刻展「街と彫刻展」を開催するなど、沖縄の現代彫刻に大きな影響を与えた。

波多野泉（1957-）は 1997 年に沖縄県立芸術大学に赴任し、現在は同大学教授を務めて後進を育てている。テラコッタや乾漆など古典的な技法を用いながら現代的な表現を行う波多野は、「現代彫刻研究会」の中心メンバーでもあり、沖縄と台湾の交流展開催にも尽力している。本展覧会では二人の初期作品から近作まで約 70 点を展示。それぞれの制作の変遷を辿りながら現代の沖縄彫刻を顧みる内容とした。（梶原正史）

□オープニング＋ギャラリートーク

【日　時】令和元年 9 月 20 日（土） 10:30～11:00
【会】ホワイエ・企画展示室
【参加者】60 人
【講　師】上條文穂（作家）
　　波多野泉（沖縄県立芸術大学教授）
【内　容】木、土、漆喰などの素材と向き合う上條氏と、観察を通して対象の中に彫刻的要素を求める波多野氏がそれぞれの作品に込めた思いや制作過程について話した。

●彫刻展オープニング

□ギャラリートーク

【日　時】令和元年 10 月 12 日（土）9:00～11:00
【会　場】企画展示室・県立芸術大学彫刻棟
【参加者】28 人
【講　師】波多野泉（沖縄県立芸術大学教授）
【内　容】展示会の概要を説明し、作品の素材について、制作過程、作品制作の変遷などを中学生に向けて丁寧に解説した。

●ギャラリートークの様子

□ワークショップ

【日　時】令和元年 10 月 12 日（土）9:00～17:30

【会　場】企画展示室・県立芸術大学彫刻棟

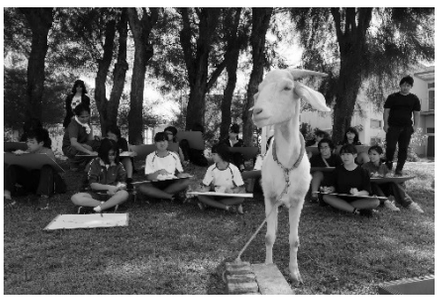
【参加者】28 人

各地区中学美術部：琉大付属中・与那原中・西崎中・
金城中・南星中

【講　師】波多野泉（作家・沖縄県立芸術大学彫刻専攻教授）
砂川泰彦（沖縄県立芸術大学彫刻専攻教授）

【内　容】美術館で、彫刻展作家本人のギャラリートークで作品鑑賞したあと、場所を県立芸術大学（崎山キャンパス）に移して、動物（ヤギ）をモチーフに石粉粘土で観察をもとに彫刻制作をした。

●完成後は鑑賞会を行い、作家より講評を頂いた。
作品は、10 月 13 日（日）～27 日（日）
美術館エントランスで展示をした。



●屋外でヤギを木炭デッサン

●ヤギを囲んで塑像

●講評会の様子

□シンポジウム

【日　時】令和元年 10 月 26 日（土）14:00～17:00

【会　場】博物館・美術館講堂

【参加者】37 人

【講　師】上條文穂・波多野泉（本展作家）
西村貞雄（彫刻家・琉球大学名誉教授）
大田和人（アトリエキャンプタルガニー）
玉那覇英人（元美術館学芸員・首里高校教諭）

【内　容】第 1 部-基調講演「沖縄の彫刻史について」
第 2 部-クロストーク「沖縄彫刻史の変遷について」

親交の深い 2 名の講師を招き、沖縄彫刻史について探っていった。本展の出品作家は、自身の作品について、また野外彫刻展など沖縄における彫刻史の歩みについて解説した。

●西村貞雄氏　基調講演

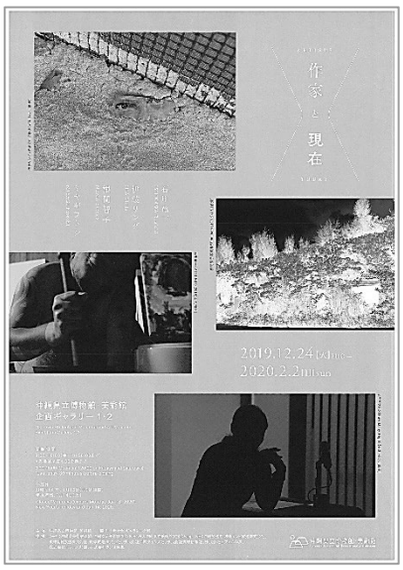
●第 2 部クロストーク

作家と現在

（会期：令和元年 12 月 24 日（火）～令和 2 年 2 月 2 日（日））

本展覧会は、県内外で広く知られ、さらなる活躍が期待されている沖縄の作家を取り上げたグループ展である。それぞれの作家の既発表の作品をもとに、いまなお変化し続ける各作家の現在を紹介する。出品作家は、ミヤギフトシ、石川竜一、伊波リンダ、根間智子の４名（敬称略）。

本展覧会では、それぞれ２回にわたるロングインタビューを収録し、それぞれの作家の言葉の集積から展覧会を練り上げた。作家が現在取り組んでいることに触れつつ、その活動の形跡をたどった。（亀海史明）



□内覧会＋アーティストトーク

【日　時】令和元年 12 月 23 日（月） 17:00～18:00
【会　場】企画展示室
【参加者】53 人
【講　師】石川竜一・伊波リンダ・根間智子
　　ミヤギフトシ（本展出品作家）
【内　容】出品作家をお招きし、アーティストトークを行った。それぞれの作家の言葉を聞く貴重な機会となった。

●オープニング作家紹介

□アーティストトーク①

【日　時】令和 2 年 1 月 17 日（金）18:00～19:30
【会　場】企画展示室
【参加者】41 人
【講　師】石川竜一（本展出品作家）
　　MITSUGU（〈MITSUGU〉シリーズのモデル）
【内　容】出品作家をお招きし、展示している〈home work〉シリーズと〈MITSUGU〉シリーズについて、作家の言葉を紹介。後半では、写真のモデルとなった MITSUGU 氏ご本人にご登壇いただき、撮影時のことについてのほか、また、今回展覧会によせて制作されたペインティングについても触れた。

●石川竜一氏・MITSUGU 氏によるトーク

□アーティストトーク②

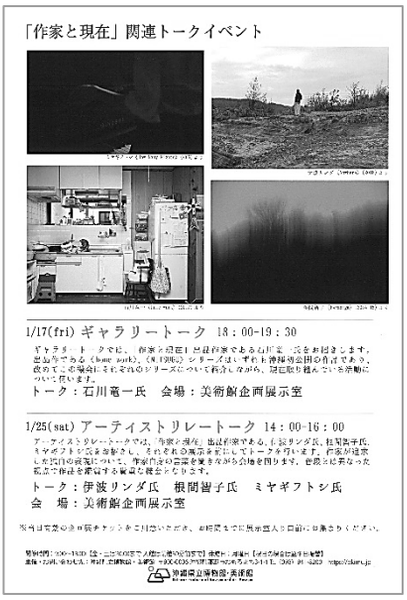
【日　時】令和２年１月 25 日（土）14:00～16:00

【会　場】企画展示室

【参加者】55 人

【講　師】伊波リンダ・根間智子・ミヤギフトシ（本展出品作家）

【内　容】出品作家３名をお招きし、それぞれの空間で作品に関することを作家本人の言葉とともに紹介し、鑑賞者と共有した。


「作家と現在」関連トークイベント

1/17(fri) ギャラリートーク　18：00-19：30

トーク：石川竜一氏　会場：美術館企画展示室

1/25(sat) アーティストリレートーク 14：00-16：00

トーク：伊波リンダ氏　根間智子氏　ミヤギフトシ氏

会　場：美術館企画展示室

【作家紹介】

●伊波リンダ（1979-）アメリカ人のポートレイトなど沖縄に暮らすアメリカ人の日常をとらえることで、沖縄に住む人々の隠された多様性と、沖縄の風景に差し挟まれるアメリカの風景を浮かび上がらせる。近作〈Nowhere〉では、初老の男性を撮影し、新たな被写体に取り組んでいる。

●根間智子（1974-）沖縄県立芸術大学絵画専攻を卒業、在籍当時からさまざまな素材を手掛け、その生成変化に注目した独自の探求を続けている。近年では写真を使った作品を多く発表し、視覚について、あるいは時間や記憶について作家の関心が際立ち、さらなる展開を見せている。

●石川竜一（1984-）写真家としての活動が目覚ましいが、最新《MITSUGU》で映像作品を手がけた。海辺での散骨のシーンは本人の慟哭が収録されており、映像による被写体のとらえ方について印象深い作品となっている。制作活動を映像に広げ、さらなる展開を見せつつある。

●伊波リンダ氏ギャラリートーク

●根間智子氏ギャラリートーク

●石川竜一氏ギャラリートーク

●ミヤギフトシ氏ギャラリートーク

●ミヤギフトシ（1981-）映像のなかに小説内の語りや歴史的な叙述を挿入することで、複数の物語をひとつの映像に重ねていく。今回出品した《How Many Nights》は、小説家オノト・ワタンナの物語のほか、日系アメリカ人の強制収容問題、戦争によって母国に帰れなくなった残留者などを語ったテクストを映像に写る女性に重ね、歴史の多面性を浮かび上がらせる。

令和元年度美術館事業統計報告

教育普及事業　　※敬称略

1．シンポジウム・講演会・上映会

回	月　日	曜	シンポジウム・講演会	参加者
1	6月8日	土	「伊志嶺隆と平敷兼七」関連催事シンポジウム 講師：倉石信乃（明治大学教授） 翁長直樹（元沖縄県立博物館・美術館副館長） 仲里効　（映像・文化批評家） 進行：亀海史明（展覧会担当学芸員）	64
2	10月26日	土	「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」関連催事　シンポジウム 講師：西村貞雄（琉球大学名誉教授）、波多野泉（沖縄県立芸術大学教授） 上條文穂（作家）、大田和人（キャンプタルガニー代表） 玉那覇英人（作家） 進行：大城さゆり（展覧会副担当学芸員）	37
3	3月6日 3月7日 3月13日 3月14日	金 土 金 土	おきみゅーシネマラボ（コロナウィルス蔓延防止のため中止） 講師：真喜屋力（沖縄アーカイブ研究所） 進行：亀海史明（展覧会担当学芸員）	中止

2．アーティスト（ギャラリー）トーク（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

回	月　日	曜	展覧会名	参加者
1	4月27日	土	「伊志嶺隆と平敷兼七」ギャラリートーク 講師：友寄寛子（写真史）	38
2	9月7日	土	「金城安太郎展」関連催事　ギャラリートーク 講師：金城美奈子（一般財団法人 沖縄美ら島財団 学芸員）	17
3	9月20日	金	「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」関連催事　ギャラリートーク 講師：上條文穂（作家）波多野泉（沖縄県立芸術大学教授）	60
4	9月28日	土	「沖縄を描いた画家 1930-1950's」関連催事 美術講座「南洋群島と沖縄」ギャラリートーク 講師：滝沢恭司（町田市立国際版画美術館担当課長・学芸係長）	20
5	12月7日	土	「真喜志勉 ドローイング展」関連催事 真喜志勉とアメリカ－TOM MAX in USA,1972-73 講師：宮城明（美術家）、仲里効（映像・文化批評家）	39
6	12月21日	土	「沖縄美術の流れ」関連催事　山城知佳子アーティストトーク 講師：山城知佳子（アーティスト）	53
7	12月23日	月	「作家と現在」内覧会　ギャラリートーク 講師：伊波リンダ、根間智子、石川竜一、ミヤギフトシ（出品作家）	53
8	1月17日	金	「作家と現在」関連催事　ギャラリートーク 講師：石川竜一（出品作家）MITSUGU（〈MITSUGU〉シリーズのモデル）	41
9	1月25日	土	「作家と現在」関連催事　アーティストトーク 講師：伊波リンダ、根間智子、ミヤギフトシ（出品作家）	55
10	2月29日	土	「大城精徳の仕事」関連催事 美術講座（コロナウィルス蔓延防止のため延期） 講師：星雅彦　（美術評論家） 宮城篤正（元沖縄県立芸術大学学長・画家）	5月延期
11	3月1日	日	「石田尚志」関連催事 ギャラリートーク（コロナウィルス蔓延防止のため中止） 講師：石田尚志（美術家）	中止

3. キュレーター トーク ・学芸員講座 （展示会担当学芸員による作品・作家解説）…… 72 人参加

回	月 日	曜	展示会名	担 当	参加者
1	8 月 31 日	土	「沖縄を描いた画家 1930-1950's」学芸員講座	豊見山愛	21
2	10 月 5 日	土	「金城安太郎」キュレータートーク+学芸員講座	梶原正史	17
3	1 月 11 日	土	「真喜志勉ドローイング展」キュレータートーク+学芸員講座	大城さゆり	32
4	1 月 19 日	土	美術館学芸員講座「コレクションと展示」	亀海史明	2

4. 教員講座 （事例発表・実技研修） …… 313 人参加

回	月 日	曜	内 容	参加者
1	8 月 6 日	火	①「造形活動から見る幼児の『10 の姿』」 講師：伊波幼稚園教諭:伊波薫 ②ワークショップ「画材技法の基礎講座」 講師：大塚義孝（ぺんてる株式会社） ③記念講演「発達段階にみる造形活動の支援」 講師：西村貞雄（琉球大学名誉教授）	36 76
2	8 月 7 日	水	①ワークショップ「画材技法の基礎講座」(特別支援教育向け) 講師：大塚義孝（ぺんてる株式会社） ②「クミクミックス（3 年）の実践を通して」 講師：開南小学校教諭　喜捨場美也子 ③「動きをとらえて　形を見つけて（6 年）」 講師：壺屋小学校教諭　瑞慶山佑輝 ④「図画工作における基本的技法」造形会員 講師：造形会員	47 55
3	8 月 8 日	木	①「地域とつながるパッケージデザイン」 講師：名護市立久志中学校　教諭島本京子 ②自己肯定感を育む表現指導の工夫「造形活動における対話的な交流授業」 講師：うるま市立あげな中学校教諭　當銘直樹 ③美術館と学校連携の取り組み「沖縄美術の流れ」教育普及プログラム -中学校鑑賞プログラム「ニシムイ」教材- 講師：県立美術館学芸員　富原圭子 ④授業実践紹介 講師：県立開邦中学校教諭 宜野座村立宜野座中学校教諭　有川愛乃 講師：国立琉球大学附属中学校教諭　酒井織恵 講師：那覇市立神原中学校教諭　照屋真紀子 講師：那覇市立城北中学校教諭　木村憲一	51 48

5．ボランティア勉強会 ……平均 16 人参加
(コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義　10:00～12:00 ）　対象：登録ボランティア

回	月 日	曜	講義内容	参加
1	4 月 17 日	水	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会。研修報告。	15
2	5 月 8 日	水	「沖縄美術の流れ」作品選出	13
3	6 月 12 日	火	壷屋焼もの博物館　見学	12
4	7 月 17 日	水	「美術館コレクション展」学芸員展示解説	11
5	8 月 21 日	水	首里城　見学	20
6	11 月 13 日	水	「美術館コレクション展」学芸員展示解説	14

6．アートコンクール ……936 作品応募

実施計画表　展示期間：10/29～11/27

回	期 日	内 容	回	期 日	内 容
1	5 月 15 日	アートコンクール提案	9	10 月 17 日～19 日	表彰式案内郵送
2	6 月 20 日	実施要項起案	10	10 月 28 日	賞状・立て看作成
3	5 月中旬	チラシ・応募用紙検討	11	10 月 28 日	展示作業・出欠確認
4	6 月 27 日	小中高応募チラシ郵送	12	11 月 3 日	表彰式(13:30～14:00)

5	10 月 14 日	作品〆切	13	11 月 27 日	展示作品撤収
6	10 月 16 日	審査	14	12 月 10 日	佳作者賞状郵送
7	10 月 17 日	表彰式打合せ・要項起案	15	〃	各学校、個人に作品返却
8	10 月 19 日	上位入賞者 HP 発表			

7．ワークショップ

(1) OKINAWA ワークショップ「錫で豆皿をつくろう」 ……24 人参加
① 日　時：令和元年 6 月 15 日(土)10：00～12：00/14:00～16:00
② 内　容：琉球王朝時代に盛んに作られた錫細工の歴史、技法を学びながら豆皿を制作
③ 講　師：上原俊展（金細工まつ）
④ 対　象：小学校 1 年から一般
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(2) 美術館夏休み こどもフェスタ①「漆喰シーサーに挑戦」 ……20 人参加
① 日　時：令和元年 7 月 26 日(金) 10:00～15:00
② 内　容：子供たちの馴染みの少ない漆喰を使ってシーサー作りに挑戦
③ 講　師：田端忠、神里善則（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）
④ 対　象：小学校 3 年から中学校 3 年
⑤ 会　場：博物館実習室

(3) 美術館夏休み こどもフェスタ②「もみもみ、ゴシゴシ針を使わないフェルトアート」 ……19 人参加
① 日　時：令和元年 7 月 27 日（土）9：00～12：00
② 内　容：濡れた羊毛を揉みこみ、コースターとモビールを制作
③ 講　師：有川愛乃、比嘉光里、西原真愛美（中学高校美術講師）
④ 対　象：5 才から中学校 3 年
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(4) 美術館夏休み こどもフェスタ③「身近な人の似顔絵を描こう！」 ……15 組参加
① 日　時：令和元年 7 月 27 日（土）13:00～15:00
② 内　容：似顔絵の描き方のコツを教えてもらい家族や友人と一緒に似顔絵を描く
③ 講　師：仲本賢、又吉浩（沖縄県立芸術大学）沖縄県立芸術大学学生
④ 対　象：小学校 1 年から中学校 3 年
⑥ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(5) 美術館夏休み こどもフェスタ④「沖縄県立芸術大学 学生企画 ねんどで山羊博士！ヤギを身近に感じたい」
……15 人参加
① 日　時：令和元年 7 月 28 日（日）10:00～15:00
② 内　容：山羊の生態や沖縄との関係を学びながら、粘土で山羊を制作
③ 講　師：坂元蘭、金城辰海（沖縄県立芸術大学　大学院生）
④ 対　象：小学校 1 年から中学校 3 年
⑥ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(6) OKINAWA ワークショップ「沖縄の植物（クロトン）で押し花アート」……25 人参加
① 日　時：令和元年 8 月 17 日（土）9:30～12：00
② 内　容：身近な植物「クロトン」の魅力を押し花で表現する
③ 講　師：伊是名教子、中島トモ子
④ 対　象：小学校 1 年から一般
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(7) 「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」彫刻ワークショップ in 沖縄県立芸術大学……28 人参加
① 日　時：令和元年 10 月 12 日(土) 9:00～18：00
② 内　容：県内中学校の美術部を対象に生きた山羊をモデルに作品を制作
③ 講　師：波多野泉（沖縄県立芸術大学教授）砂川泰彦（沖縄県立芸術大学教授）
④ 対　象：県内中学校美術部
⑤ 会　場：美術館企画ギャラリー、沖縄県立芸術大学崎山キャンパス

(8) OKINAWA ワークショップ「石獅子　守り神づくり」……10 組参加
① 日　時：令和元年 10 月 19 日（土）①9:30～12：30　②14：00～17：00
② 内　容：琉球石灰岩を使って石彫に挑戦
③ 講　師：若山大地、若山恵里（スタジオ de-jin）
④ 対　象：未就学から一般
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(9) OKINAWA ワークショップ「漆喰シーサーに挑戦！」……20 人参加
① 日　時：令和元年 11 月 16 日（土）、17 日（日）10:00～15:00
② 内　容：首里城復元に携わった職人から本格的な漆喰シーサーの作り方を学ぶ
③ 講　師：山城富函、大城幸祐、田端忠、神里善則、城間盛行（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）
④ 対　象：小学校５年から一般
⑤ 会　場：博物館実習室

(10) OKINAWA ワークショップ「干支紅型でお正月の仕度」……40 人参加
① 日　時：令和元年 12 月 14 日（土）①10:00～12:00　②14：00～16：00
② 内　容：紅型の歴史を学び、次の干支「子」の紅型に挑戦する
③ 講　師：山城信吾、吉濱　愛（城紅型染工房）
④ 対　象：5 才から一般
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(11) 沖縄県立博物館・美術館 第 12 回移動展 in 伊江島
OKINAWA ワークショップ「伊江島の石で石獅子をつくろう！」……14 組参加
① 日　時：令和２年２月１日（土）①9:00～11：00　②12：00～14：00
② 内　容：伊江島の石を使って石彫に挑戦
③ 講　師：若山大地（スタジオ de-jin）、津波夏希（彫刻家）
④ 対　象：小学校１年から一般
⑤ 会　場：伊江村農村環境改善センター

(12) OKINAWA ワークショップ「琉球漆器 沈金を楽しもう」……20 人参加
① 日　時：令和２年２月 15 日（土）9:30～12:30
② 内　容：琉球漆器の技法の中から沈金に挑戦
③ 講　師：前田春城、前田貴子（琉球漆紀行）、森田敦子（工房ぬりトン）
④ 対　象：小学校４年から一般
⑤ 会　場：こどもアトリエ、県民アトリエ

８．美術館ミュージアムツアー…… 42 人参加
① 内　容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを教育普及担当学芸員が案内する
② 定　員：12 名
③ 時　間：10:30～12:00
④ 場　所：*トラックヤード*一時保管庫*収蔵庫*工作室*修復室*展示室作品鑑賞

回	月　日	内　容	担当学芸員	参加人数
1	5 月 18 日	伝える（教育普及）	富原圭子	12
2	7 月 20 日	集める（資料収集）	亀海史朗	7
3	9 月 14 日	調べる（調査研究）	豊見山愛	3
4	11 月 3 日	まもる（保存・修復）	梶原正史	12
5	1 月 25 日	みせる（展示公開）	大城さゆり	8

９．博物館･美術館連携事業
慰霊の日特別企画　「平和ってなに？？」美術館えほん読み聞かせ……55 人参加
① 日　時：令和元年 6 月 23 日（日）14:00～15:00
② 内　容：絵本「マブニのアンマー」「へいわってすてきだね」
「四人の兵士のものがたり」「へいわってどんなこと」の読み聞かせ
③ 講　師：島尻千賀子、山内淳子（沖縄県子どもの本研究会）
④ 場　所：美術館アトリウム

１０．職場体験　……23 人参加
キャリア教育の具体的理解として、生徒が職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習。館内施設を見学し、博物館・美術館交互に業務体験。
① 対　象：本島域内中学校・高等学校
② 方　法：各学校の依頼受け入れ
③ 場　所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室
④ 内　容：施設見学、美術館班資料整理、各業務体験

回	月 日	曜日	学校名	見学者
1	6月26日	水	那覇市立小禄中学校（2年）	4
2	7月10日	水	沖縄県立沖縄水産高等学校（2年）	2
3	7月31日	水	アメラジアンスクール・イン・オキナワ（中学3年）	3
4	9月18日	水	沖縄県立沖縄工業高等学校（2年）	4
5	12月18日	水	浦添市立仲西中学校（1年）	4
6	1月22日	水	那覇市立安岡中学校（特別支援学級）	6

11．鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」……673人参加

児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う

① 対　象：本島域内小中学校、特別支援学校等

② 方　法：公募により学校を選定

③ 場　所：コレクション展示室

④ 内　容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月 日	曜日	学校名	見学者
1	9月25日	水	読谷村立渡慶次小学校　（5年）	102
2	9月26日	木	沖縄市立山内中学校　（特別支援学級1～2年）	17
3	9月27日	金	浦添市立当山小学校　（特別支援学級1～6年）	54
4	10月4日	金	沖縄市立越来中学校　（3年）	64
5	10月8日	火	糸満市立真壁小学校　（6年）	29
6	10月9日	水	浦添市立浦添中学校　（特別支援学級1～3年）	25
7	11月19日	火	うるま市立赤道小学校　（6年）	110
8	11月20日	水	沖縄市立安慶田小学校　（6年）	86
9	12月5日	木	那覇市立神原小学校　（4年）	59
10	12月6日	金	那覇市立那覇小学校　（4年）	83
11	2月15日	土	美術部（伊良波中・糸満中・西崎中・潮平中）	44

12．学校団体見学対応　……601人参加

（鑑賞ボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム）

回	月 日	曜日	学校名	内　容	見学者
1	7月18日	木	沖縄県立島尻特別支援学校（中学部）	美術館コレクション展	28
2	7月18日	木	沖縄県立島尻特別支援学校（高等部）	美術館コレクション展・美術館企画展	43
3	7月19日	金	那覇市立寄宮中学校（特別支援）	美術館コレクション展・美術館企画展	28
4	7月18日	木	アメラジアンスクール・イン・オキナワ	美術館コレクション展・美術館企画展	43
5	9月5日	金	那覇市立神原中学校（特別支援）	美術館コレクション展・美術館企画展	30
6	9月28日	土	沖縄県立開邦高等学校（芸術科1～3年）	美術館コレクション展・バックヤード	49
7	10月11日	金	沖縄県立首里高等学校（染色デザイン科）	美術館企画展・バックヤード	10
8	10月30日	水	沖縄県立鏡が丘特別支援学校（高等部）	美術館コレクション展・美術館企画展	27
9	11月6日	水	南城市立佐敷小学校　（4年）	美術館コレクション展	76
10	11月13日	水	沖縄県立首里高等学校（普通科）	美術館コレクション展・バックヤード	6
11	11月21日	木	豊見城市立豊崎小学校（5年）	美術館コレクション展	168
12	12月18日	水	那覇市立神原小学校（特別支援）	美術館コレクション展・美術館企画展	15
13	1月15日	水	沖縄県立鏡が丘特別支援学校	美術館コレクション展・美術館企画展	中止
14	1月23日	木	沖縄県立浦添工業高校（デザイン科）	美術館コレクション展・バックヤード	78

１３．出前授業 ……19 校
*美術館収蔵作品ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー・キャリア教育

回	月　日	学校名	回	月　日	学校名
1	5 月 15 日	琉大付属中学校	11	10 月 1 日	糸満市立真壁小学校
2	5 月 17 日	県立開邦中学校	12	10 月 3 日	浦添市立浦添中学校（特支）
3	6 月 14 日	那覇市立城北中学校	13	10 月 6 日	うるま市立赤道小学校
4	6 月 20 日	県立島尻特別支援学校（小学部）	14	10 月 7 日	沖縄市立安慶田小学校
5	6 月 27 日	県立島尻特別支援学校（高等部）	15	10 月 9 日	県立鏡が丘特別支援学校（高等部）
6	7 月 10 日	那覇市立寄宮中学校（特支）	16	11 月 20 日	那覇市立神原小学校
7	9 月 4 日	読谷村立渡慶次小学校	17	11 月 28 日	那覇市立那覇小学校
8	9 月 11 日	沖縄市立山内中学校（特支）	18	1 月 6 日	県立鏡が丘特別支援学校（中学部）
9	9 月 18 日	浦添市立当山小学校（特支）	19	2 月 5 日	豊見城市立伊良波中学校
10	9 月 27 日	沖縄市立越来中学校			

*ティーチャーズキットのみの借用・アートカード・美術館マナー・キャリア教育

		学校名	使用目的	セット数
1	6 月 30 日	那覇市立神原中学校	研究授業に活用	3
2	9 月 4 日	読谷村立渡慶次小学校	来館前出前授業	5
3	9 月 11 日	沖縄市立山内中学校（特支）	来館前出前授業	4
4	9 月 25 日	浦添市立当山小学校（特支）	来館前出前授業	5
5	9 月 27 日	沖縄市立越来中学校	来館前出前授業	5
6	10 月 1 日	糸満市立真壁小学校	来館前出前授業	5
7	10 月 3 日	浦添市立浦添中学校（特支）	来館前出前授業	5
8	7 月 18 日	県立島尻特別支援学校（小学部）	研究授業及び校内 OJT	5
9	7 月 18 日	県立島尻特別支援学校（高等部）	来館前出前授業	5
10	7 月 10 日	那覇市立寄宮中学校（特支）	来館前出前授業	5
11	7 月 5 日	アメラジアンスク-ル	来館前出前授業+研究授業発表	5
12	9 月 5 日	那覇市立神原中学校（特支）	授業での鑑賞用	4
13	8 月 22 日	豊見城市立伊良波中学校	研究授業に活用	9
14	9 月 27 日	浦添市立当山小学校（特支）	研究授業に活用	6
15	11 月 6 日	うるま市立赤道小学校	来館前出前授業	5
16	11 月 7 日	沖縄市立安慶田小学校	来館前出前授業	4
17	11 月 20 日	那覇市立神原小学校	特別支援との交流授業	6
18	11 月 28 日	那覇市立那覇小学校	来館前出前授業　＊中学校プログラムパネル	5
19	11 月 29 日	県立芸術大学	来館前出前授業　＊中学校プログラムパネル	6
20	1 月 6 日	県立鏡が丘特別支援学校（中学部）	来館前出前授業　＊中学校プログラムパネル	2

１４．研修対応
学芸員実習
① 期　間：令和元年 8 月 19 日（月）～8 月 30 日（金）10 日間（土、日を除く）
② 参加者：8 名（沖縄県立芸術大 7 名+多摩美術大学 1 名）
③ 内　容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館、学芸員業務全般

回	期日	内　容
1	8 月 19 日(月)	開講式・オリエンテーション
2	8 月 20 日(火)	*美術館業務の考え方と実際（仲嶺班長） *教育普及事業Ⅰ・Ⅱ　*教育普及演習　*鑑賞プログラム（富原） *資料保存・修復の実際Ⅰ・Ⅱ　*平面の扱い（梶原） *企画展示の実際Ⅰ・Ⅱ（豊見山） *資料収集の概要（亀海） *調査・研究の概要（豊見山）　*立体の取扱（梶原） *常設展示の実際Ⅰ・Ⅱ（大城・亀海） *資料調査実習（豊見山） *共通課題演習「ニシムイ」プレゼン・ワークシート
3	8 月 21 日(水)	
4	8 月 22 日(木)	
5	8 月 23 日(金)	
6	8 月 26 日(月)	
7	8 月 27 日(火)	
8	8 月 28 日(水)	
9	8 月 29 日(木)	
10	8 月 30 日(金)	共通課題発表(ニシムイ)・閉講式

[さいごに]

　教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人と他の何かが結び付く機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。
　今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

令和元年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2020 年 3 月 31 日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
℡.098-941-8200（代表）

教育普及担当
富原圭子（沖縄県立博物館・美術館）
渡邉愛依（沖縄県立博物館・美術館）
保久村智恵（一般財団法人 沖縄美ら島財団）
植田瑞生（一般財団法人 沖縄美ら島財団）